

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

a)定員設定の考え方

名古屋学院大学のスポーツ健康学部は、幼児期から高齢期までの生涯を見据え、運動・スポーツを通じた人々の健康の維持・増進やQOL（Quality of Life）の向上に貢献できる人材を養成することを目的とし、これまではスポーツ健康学科の一学科体制で教育研究を進めてきた。近年、幼児期や児童期における運動・スポーツの充実が求められていることに鑑み、とりわけ学校教育現場においてこの課題に対応するため、新たに「こどもスポーツ教育学科」を設置する。

この課題が提起される背景には、成長の重要な時期である幼児期や児童期における運動・スポーツが、生涯にわたる健康の大切な基礎となり、ひいては社会全体の活力の源となるにもかかわらず、こどもの体力は低下・停滞傾向にあり、こどもの外遊びの場所、仲間及び時間も減少しているという問題がある。本学科は、こどもの運動・スポーツ教育に関する教育研究に加えて、小学校及び幼稚園教諭の養成に必要な教育研究の提供により、こどもの心身ともに健やかな成長に貢献できる、高度な専門知識と実践的な教育力を持った人材を育成することを設置の理念としている。

本学科においては、小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状の取得を可能とし、卒業生の主たる職業として、小学校教諭及び幼稚園教諭を想定している。後述するように、愛知県内の教員養成系学部は20大学に設置されており、入学定員は最小40名、最大392名、平均値は147名である。本学科は定員確保に慎重を期すとともに、少人数による質の高い教育を行うため、入学定員を50名（編入学定員0名）とする。

b)定員充足の根拠

こどもスポーツ教育学科の入学定員充足の根拠について、概要は以下のとおりであり、詳細を「②定員充足の根拠となる調査結果の概要」で説明する。

- 全国及び愛知県の「教育学」「スポーツ」系学部の入学志願動向が安定的かつ良好であること。
- 第三者機関による入学意向調査結果から、入学定員充足が見込まれること。
- 以下に示す本学科の設置目的が社会的ニーズを踏まえたものであり、卒業後の進路の確保が十分に見込めること。
 - ア) 生涯にわたる健康の基礎づくりへの貢献
 - イ) こどもの運動・スポーツ指導の改善への貢献
 - ウ) 健康や運動・スポーツに強い関心を持つ小学校及び幼稚園教諭の養成
 - エ) 幼－小連携とその後のライフステージへの関連性

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

a)全国のスーツ系・教育系学部の入学生動向

はじめに、日本私立学校振興・共済事業団の公表データに基づき、こどもスーツ教育学科と同系統である「教育学」「スーツ」系学部の入学生動向を概観する。平成25年度現在、全国の私立大学において教育学系学部は70大学に、スーツ系学部は11大学に設置されている。ここで、スーツ系学部はスーツ健康科学部、スーツ科学部、スーツ健康学部の集計である。

教育学系学部は平成22年度から平成25年度まで一貫して、志願倍率（志願者数/入学生定員）及び定員充足率のいずれも全体平均を上回っている。平成25年度の志願倍率は、教育学系学部の7.73倍に対して全体は7.39倍であり、定員充足率については教育学系学部の1.11に対して全体は1.06である。

スーツ系学部は教育学系学部を上回る志願動向を示している。スーツ系の3学部の集計値が公表された平成23年度から平成25年度まで一貫して、志願倍率（志願者数/入学生定員）及び定員充足率のいずれも全体平均を上回っている。平成25年度のスーツ系学部の志願倍率は9.83倍、定員充足率は1.13であり、受験生にニーズの高い分野となっている。

（資料①）

b)愛知県のスーツ系・教育系学部の入学生動向

学校基本調査によれば、愛知県内の高校生が地元大学へ進学する比率（残留率）は7割で推移しており、平成25年度において72.0%と全国一の高水準となっている。本学も愛知県からの入学者が例年6～7割を占めることから、次に、愛知県のスーツ系・教育学系学部の入学生動向を分析する。

愛知県のスーツ系学部は、本学をはじめ至学館大学、中京大学、東海学園大学の4大学に設置されている。平成25年度入試においては、総定員940名に対して、志願者9,397名、合格者2,063名、入学者1,133、平均定員超過率は1.21であり、いずれの大学の学部学科も定員を充足している。（資料②）

教育学系学部については、こどもスーツ教育学科と同様の幼稚園教諭又は小学校教諭の免許状を取得できる大学を比較すると、国立、公立、私立あわせて19大学に20学部が設置されている。入学生定員の規模は、愛知教育大学の392名を筆頭に愛知県立大学の40名が最小であり、平均値は141名である。大学によって定員充足率には差が見られるが、全体の定員超過率は平成25年度1.02と定員を充足している。本学のこどもスーツ教育学科は、既存のスーツ健康学部スーツ健康学科における「体育学」をベースに「教育学・保育学」の教育研究を行うものである。愛知県内では、至学館大学の健康科学部こども健康・教育学科（入学生定員60名）が同様のコンセプトであり、同大学同学科の定員超過は平成25年度1.23と良好な募集状況である。（資料③）

こどもスーツ教育学科の入学生定員50名は、愛知県の教育学系学部の中で愛知県立大学

に次ぐ最小規模であり、以下で述べる入学意向アンケートの結果からも、十分に定員確保ができる見通しである。

c)名古屋学院大学既存学部の入試状況について

本学の既存学部の入試状況をみると、学部学科によって変動はあるものの大学全体の志願者数は増加傾向を示しており、平成20年度3,285人、平成21年度3,687人、平成22年度3,846人、平成23年度4,821人、平成24年度4,706人、平成25年度6,831人、平成26年度7,268人と推移している。また、大学全体の定員充足率の平均（過去4年間）は1.05となっている。このような入試状況は、本学の教育研究活動が高等学校に信頼されている証と考えている。（資料④）

d)第三者機関による入学意向調査結果

こどもスポーツ教育学科について、第三者機関（株式会社ユー・イー・ディー研究所）による入学意向調査を行った。アンケート調査は、平成25年12月から平成26年1月にかけて、高等学校進路指導部を通じて、新学科開設時の進学対象となる高校2年生に実施した。調査対象である高校2年生は、愛知県、岐阜県、三重県及び静岡県にある国公立高等学校の内、進学実績のある高等学校75校14,626人である。有効回答は70校11,913人（有効回収率81.5%）であった。アンケート調査の際、こどもスポーツ教育学科の養成する人材像や特色を簡潔にまとめたパンフレット（資料⑤）を提示し、質問紙に回答してもらった。アンケート調査報告書（資料⑥）は巻末に添付したとおりであり、その概要を以下に説明する。

このアンケートの結果では、こどもスポーツ教育学科に対して103人が「入学を希望する」、622人が「入学を検討する」と回答した。ここで、「入学を希望する」者はこどもスポーツ教育学科の上位希望者層であり、合格した場合実際に入学する可能性が極めて高いと考えられる。他方、「入学を検討する」者は、受験はするものの併願大学の入試結果によって入学の意思決定を行う層であると考えられる。

表1 こどもスポーツ教育学科入学意向調査結果の概要

入学定員	入学を希望する	入学を検討する
50	103	622

本アンケートに回答した高等学校（以下、回答校と略記）は、愛知県、岐阜県、三重県及び静岡県の全515校のうち70校であり、生徒数は134,215人のうち11,913人である。そこで、今回のサンプル調査に基づき、実際の入学希望者数の推計を試みるため、過去4か年の本学入学試験に占める回答校の状況について説明する。表2に記載のとおり、回答校の入学者占有率は極端に大きな変動が見られず、例年35%から38%台で推移している。

回答校の入学者に対する全体の入学者数の比率は過去4か年の平均値で2.68であることから、この数値に入学希望者数を乗じると、実際には276名の入学希望者がいるものと推計される。

したがって、現時点で入学定員50名の学生は十分に確保できるものとする。今後は積極的なPR活動を展開し、こどもスポーツ教育学科の教育内容を訴求することにより、「入学を希望する」層を確実に受験者数として取り込み、入学者につなげていく。

表2 回答校の入学実績

	平成 25	平成 24	平成 23	平成 22	4 か年平均
回答校入学者数 (A)	560	450	476	477	491
(入学者全体の占有率)	37.7%	38.8%	37.3%	35.5%	37.3%
全体の入学者数 (B)	1,484	1,160	1,277	1,342	1,316
指数 (B)/(A)	2.65	2.58	2.68	2.81	2.68

③学生納付金の設定の考え方

こどもスポーツ教育学科の学生納付金は表3のとおり、既存のスポーツ健康学部スポーツ健康学科と同様、入学金280,000円、授業料790,000円、施設設備費300,000円及び諸会費8,500円とする。初年次納入金は1,378,500円、2年次以後は1,098,500円であり、愛知県内の競合大学と比較して妥当な金額と考えられる。

表3 競合大学の学生納付金

大学名	学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
至学館大学	健康科学部	こども健康・教育学科	250,000	700,000	400,000	—	1,350,000
中京大学	スポーツ科学部	スポーツ教育学科	200,000	830,000	390,000	20,100	1,440,100
名古屋学院大学	スポーツ健康学部	こどもスポーツ教育学科	280,000	790,000	300,000	8,500	1,378,500

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

次のとおり、高校教員に対する説明、受験生対象の説明会及びダイレクトメール発送など個別のアプローチに加えて、広告やホームページなども併用し、学生確保に努めていく。

①高校訪問

5月以降、愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の東海4県に加え、長野県・福井県・石川

県・富山県・滋賀県の高等学校進路指導部を訪問し、新学部・学科に関するパンフレットを持参し説明を行う。また、高等学校に対して、オープンキャンパス案内チラシの掲示を依頼しており、チラシの中でも、新学科が開設予定である旨を告知していく。

②高校教員向け入試説明会

名古屋市（本学名古屋キャンパス）、岐阜市、四日市市、豊橋市、浜松市において、本学主催の高校教員対象説明会を5月下旬から6月上旬にかけて実施する。説明会には、例年合計120名の参加を得ている。説明内容では、入試結果・入試要項に加え、新学部・学科の教育内容や特色も紹介し周知徹底を図る。

③進学相談会

4月より12月まで、広告代理店等の主催により、全国で受験生及びその父母を対象とした進学相談会に参加する。パンフレットの配布に加え、個別相談に応じ、新学部・学科の内容についても説明していく。

④オープンキャンパスの開催

名古屋キャンパスでは7月26日（土）・27日（日）に全学部を対象として、瀬戸キャンパスでは8月10日（日）に新設のこどもスポーツ教育学科を含めた瀬戸キャンパス設置学部を対象としてオープンキャンパスを開催する。オープンキャンパスでは、大学・学部についての関心が深まるよう、来場者に対して模擬講義、進学相談会、キャンパスツアー、入試説明会等を開催する。また、保護者に対しても別途説明会を開催する。

新学部・学科については、就任予定教員及び開設準備関係者の協力を得て、オープンキャンパスを通じて参加する高校生に対して興味関心を抱かせ、出願に結びつくように取り組んでいく。

⑤パンフレットの作成

通常の大学案内パンフレットとは別に、新学部・学科に特化したパンフレットを作成し、その魅力を訴求する。高校教員及び本学資料請求者へ配布し、新学部・学科の内容について周知徹底を図る。

⑥個別DMの配布

本学資料請求者に加え、大手予備校などのデータを利用し、5月以降ほぼ毎月、地域・志望系統を選択し、受験生へ個別DMを配布していく。これにより、新学部・学科系統の受験生へ興味関心を抱かせ、出願へ結びつけることをねらう。

⑦交通広告・新聞広告

高等学校で保護者懇談会が開催される7月と12月の2回、名古屋市内を中心とした愛知県、岐阜県及び三重県の主要駅及び車内での交通広告を実施し、新学部・学科の周知を図る。また、年間にわたり随時掲載される、東海地区の大学を集約した新聞広告においても情報を発信していく。

⑧ホームページ

本学ホームページ (<http://www.ngu.jp/>) において、新学部・学科のページを新たに設け、教育の特色等に関するコンテンツを作成し、内容を随時更新していく。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

こどもスポーツ教育学科の教育理念は、こどもの運動・スポーツ教育に関する教育研究に加えて、小学校及び幼稚園教諭の養成に必要な教育研究の提供により、こどもの心身ともに健やかな成長に貢献できる、高度な専門知識と実践的な教育力を持った人材を育成することである。本学科は、この理念に基づく教育研究上の目的を次のように設定している。

- ①生涯にわたる健康の基礎づくりへの貢献
- ②こどもの運動・スポーツ指導の改善への貢献
- ③健康や運動・スポーツに強い関心を持つ小学校及び幼稚園教諭の養成
- ④幼・小連携とその後のライフステージへの関連性

幼児期・児童期に焦点を当てるこどもスポーツ教育学科において、卒業生が最もその能力を発揮し社会に貢献できる進路として小学校及び幼稚園教諭を想定している。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①生涯にわたる健康の基礎づくり

幼児期から児童期において運動・スポーツを習慣化することは、体力の向上や生活習慣の改善との好循環を生じさせ、一生を通しての健康の維持・増進や体力の向上の重要な基礎となる。このことがひいては、生活習慣病の予防、国民医療費の減少、アクティブな高齢社会の実現及び生涯スポーツ社会の実現にも寄与すると考えられる。しかし、平成20年度から文部科学省が行っている「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、運動するこどもとしないこどもが二極化するとともに、1週間の総運動時間60分未満のこどもが多く存在するなどの問題が明らかになり、その対応が急務となっている。すなわち、幼児・児童期において生涯にわたる健康の基礎づくりを行うため、本学科が取り組

むこどもの運動習慣やスポーツ習慣の形成に関する教育研究が必要とされている。

②こどもの運動・スポーツ指導の改善

運動・スポーツを通してこどもが健やかに成長していくためには、その発達段階に応じた適切な指導が必要となる。こどもの体力低下が問題となっている現在、指導内容の面では、「走る」「跳ぶ」「投げる」といった基礎的な運動能力の向上とともに、基礎的な動きの獲得に結び付くようなプログラムの提供が、指導方法の面では、こどもができなかった動きをできるようにする指導、上達のコツを伝えられる指導が求められている。しかし現状では、幼稚園の運動遊びや小学校の体育において、指導に対し苦手意識を持つ教員が多く（参考：朝日新聞 2011 年 12 月 8 日朝刊「体育の教え方、教えます 都教委、小学教員採用予定者に」）、このことを補うように体育の家庭教師という職業も拡大している。本学科が取り組む、一定基準の運動を「できるようにする指導」及び運動・スポーツの「楽しさに触れる指導」を通じたこどもの運動・スポーツ指導の改善は、社会のニーズに対応したものである。

③健康や運動・スポーツに強い関心を持つ小学校及び幼稚園教諭

本学科の卒業生がこどものスポーツ指導や教育に関してその能力を発揮していく上で、小学校及び幼稚園は、すべてのこどもが継続的に運動・スポーツに親しむことができる制度的及び物的条件が揃った最適な場である。平成 20 年 3 月 28 日に公示された新しい学習指導要領等は、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「健やかな体（体）」のバランスのとれた力である「生きる力」をより一層育むことを目指し、運動・スポーツ・体育を充実させる観点が含まれている。このことを反映して、新しい幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領は、運動・スポーツ・体育を充実させる観点から改訂が行われている。このような小学校教育及び幼稚園教育に対する今日の要請に応えるためにも、健康や運動・スポーツに強い関心を持つ教員の養成が必要である。

④幼－小連携とその後のライフステージの関連性

本学科は、幼児期に強い関心を持つ学生に対して、幼小の教育を連携させた広い視点から幼稚園に関する内容と指導法について修得させる。近年、小学校に入学したばかりの生徒が、授業中に座ってられない、教員の話を受けない等の問題（小 1 プロBLEM）が表面化する中、平成 20 年 3 月 28 日に公示された新しい幼稚園教育要領では、指導計画の作成に当たって特に留意する事項として、幼－小連携に関する項目が追加された。幼稚園教育の中心が「遊び」を通しての指導であることを考えると、「遊び」を運動の側面から深く理解し、その連続として小学校低学年の運動遊びや体づくりに繋げていくことが必要である。

加えて、新しい学習指導要領では、小学校、中学校及び高等学校を通じた、体育科・

保健体育科における指導内容の整理と体系化が図られた。これは、それぞれの発達の段階に応じた指導を関連付けて行う必要性を示している。本学科が取り組む、幼児期と児童期を連続的に捉え、その後のライフステージへの関連性も持たせる視点の教育研究が必要とされている。

⑤小学校教諭の採用動向について

a)年齢構成

学校教員統計調査による全国の年齢別公立小学校教員数（平成 22 年 10 月 1 日現在）に基づき、全国の小学校教員の年齢構成を概観する。平成 25 年 10 月 1 日時点で定年年齢 60 歳に達する教員数は 12,394 人であり、退職予定者数は以後増加を続け、平成 29 年に 17,039 人とピークを迎え、こどもスポーツ教育学科の完成年度となる平成 30 年度に定年年齢を迎える者は 16,922 人（平成 25 年に 55 歳）と予想される。以後、退職予定者数は減少傾向を示し、平成 35 年 11,799 人（同 50 歳）、平成 40 年 10,231 人（同 45 歳）、平成 45 年 8,296（同 40 歳）、それ以後は 8,000 人から 7,000 人の間で推移する見込みである。

本学の所在地である愛知県を含む東海 4 県の年齢構成も、全国的な傾向とほぼ同様の状況を示しているが、愛知県については平成 45 年以後の退職予定者数の増加が全国よりも高い傾向を示している。具体的には、平成 45 年から平成 57 年にかけて、全国は 8,296 人から 7,244 人へと 12.7%減少するのに対し、愛知県は 370 人から 638 人へと 72.4%の増加となっている。（資料⑦）

このように、退職者は減少するものの、中長期的に一定の人材需要が見込まれる。

b)採用者数

次に、文部科学省ホームページ上で公表されている公立学校教員採用選考試験の実施状況（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243159.htm）を基に、公立小学校教員の応募、採用状況について説明する。

全国の公立小学校教員採用数は、平成 11 年度の 3,683 人から上昇に転じ、平成 16 年度には 10,483 人と一万人の大台を超え、平成 25 年度の 13,626 人に至るまで一貫して増加傾向にある。直近 3 か年の採用者数（競争率）は、平成 23 年度 12,883 人(4.5 倍)、平成 24 年度 13,598 人(4.4 倍)、平成 25 年度 13,626 人 (4.3 倍) と推移している。（資料⑧）

東海 4 県の過去 3 か年の競争率は、2 倍台後半から 4 倍台で推移し、愛知県、岐阜県、静岡県では全国平均よりも下回っている。愛知県の採用数（競争率）は、平成 23 年度 730 人(3.7 倍)、平成 24 年度 2,875 人(4.0 倍)、平成 25 年度 2,676 人（3.6 倍）と推移している。岐阜県では、平成 23 年度 271 人(2.8 倍)、平成 24 年度 233 人(3.3 倍)、平成 25 年度 255 人（3.2 倍）と推移している。三重県では、平成 23 年度 206 人(4.3 倍)、平成 24 年度 194 人(4.8 倍)、平成 25 年度 230 人（4.3 倍）、静岡県では平成 23 年度 164 人(4.4 倍)、平成 24 年度 200 人(3.7 倍)、平成 25 年度 200 人（3.7 倍）と推移している。（資料⑨）

このように、本学の所在する東海地区においても、こどもスポーツ教育学科の完成年度以降、退職者は減少するものの、継続的な需要が見込まれる。

⑥幼稚園教諭の採用動向について

a)年齢構成

平成 25 年度学校教員統計調査（中間報告）によると、幼稚園教員の年齢構成は、25 歳未満が 24.8%、25 歳～30 歳未満が 22.6%であり、30 歳未満が 47.4%と半数を占めている（資料⑩）。これに対し、30 歳未満の小学校教員の比率は 14.3%である。30 歳未満の幼稚園教員の比率は平成 10 年時点で 56.2%であり、平成 13 年 56.6%、平成 16 年 53.5%、平成 19 年 51.8%、平成 22 年 49.8%と漸減傾向にあるものの、際立った変化を示していない。このことは、若年層の離職者が多く 30 歳未満で 62.9%（平成 25 年）を占めていることが要因となっている。

b)採用者数

平成25年度学校教員統計調査（中間報告）によると、全国の幼稚園教員の採用数は平成10年11,528人、平成13年10,654人、平成16年11,333人、平成19年11,468人、平成22年11,364人、平成25年11,439人と推移し、直近15年間で大きな変動はない。愛知県の採用人数は平成10年720人、平成13年710人、平成16年787人、平成19年730人、平成22年708人と推移しており、こちらも大きな変化は見られない。（資料⑪）

本務教員の平均勤務年数は表4のとおり、平成25年において、幼稚園の10.3年に対して小学校は19.0年となっており、この15年間で大きな変化は見られない。また、離職の理由（表5）を調べると、小学校は定年退職が65.6%であるのに対し、幼稚園は定年退職が6.3%、家庭の事情31.7%、その他34.6%となっている。

以上から、幼稚園教員は30歳未満の構成比率が約半数と小学校の3倍強を占めており、平均勤務年数も10年と小学校教員の半数であることから、若い世代で雇用が回転している傾向を確認することができる。さらに、採用者数と関係する離職者数が、この15年間で11,401人から12,857人の間で大きな変動なく推移していること、平均勤務年数に殆ど変動がないことを考慮すれば、今後も幼稚園教員については一定した需要が見込めると考えられる。

表4：本務教員の平均勤務年数

年度	平成 10	平成 13	平成 16	平成 19	平成 22	平成 25
幼稚園	10.1	10.6	10.5	10.5	10.3	10.3
小学校	18.2	19.7	20.2	20.2	19.6	19.0

出典：「学校教員統計調査」文部科学省ホームページ

表5：離職の理由別離職教員数及び比率

上段：人数、下段：比率

	計	定年	病気	死亡	転職	大学等 入学	家庭の 事情	職務上 の問題	その他
幼稚園	11,710	738	499	51	2,404	75	3,715	178	4,050
	100.0	6.3	4.3	0.4	20.5	0.6	31.7	1.5	34.6
小学校	18,353	12,040	600	194	1,380	25	1,897	100	2,117
	100.0	65.6	3.3	1.1	7.5	0.1	10.3	0.5	11.5

出典：「学校教員統計調査」文部科学省ホームページ

⑦名古屋学院大学既存学部就職状況について

こどもスポーツ教育学科の卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員に加えて、幼児や児童を対象としたスポーツ産業など一般企業も想定される。そこで、進路見通しの参考のため、本学の直近5ヵ年間の就職状況について以下に説明する。

卒業生に対する求人件数は、2008年度7,085社、2009年度5,342社、2010年度4,776社、2011年度5,420社、2012年度6,468社と推移しており、2010年度を境に再び上昇に転じている。就職希望者に対する就職決定率は、2008年度95.3%、2009年度88.8%、2010年度89.8%、2011年度92.5%、2012年度96.8%と推移し、2009年度に底をついた後は再び上昇傾向にある。（資料⑫）

⑦第三者機関による採用意向調査結果（資料⑬）

こどもスポーツ教育学科について、第三者機関（一般財団法人日本開発構想研究所）による採用意向調査を行った。アンケート調査は、平成26年2月、本学に求人をしている愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の企業等を中心とした4,756社の採用担当者を対象に、こどもスポーツ教育学科の養成する人材像や教育の特色を記載したパンフレットと質問紙を送付し、社会的必要性や採用意向等について質問した。有効回答は741社（有効回収率15.5%）であり、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の所在地が55.5%を占めている。

表6 こどもスポーツ教育学科の採用意向調査結果の概要

入学定員	採用したい	採用を検討したい
50	141(206)	367(375)

注）括弧内は採用人数

こどもスポーツ教育学科の社会的必要性については、「社会的必要性の高い分野である」と回答した企業等は270社（36.4%）、「一応、社会的必要性を感じる」と回答した企業等は283社（38.2%）であった。すなわち、約75%の企業等が「社会的に必要性がある」と認めていることから、本学科の教育は地域の人材需要に対応していると考えられる。

さらに、こどもスポーツ教育学科の卒業生に対して採用意向を示した企業等は有効回答741社のうち141社、採用人数は206人であり、定員以上の採用が確保される見込みである。

こどもスポーツ教育学科設置に関する人材需要の動向等をあらためて整理すると、下記のとおりである。

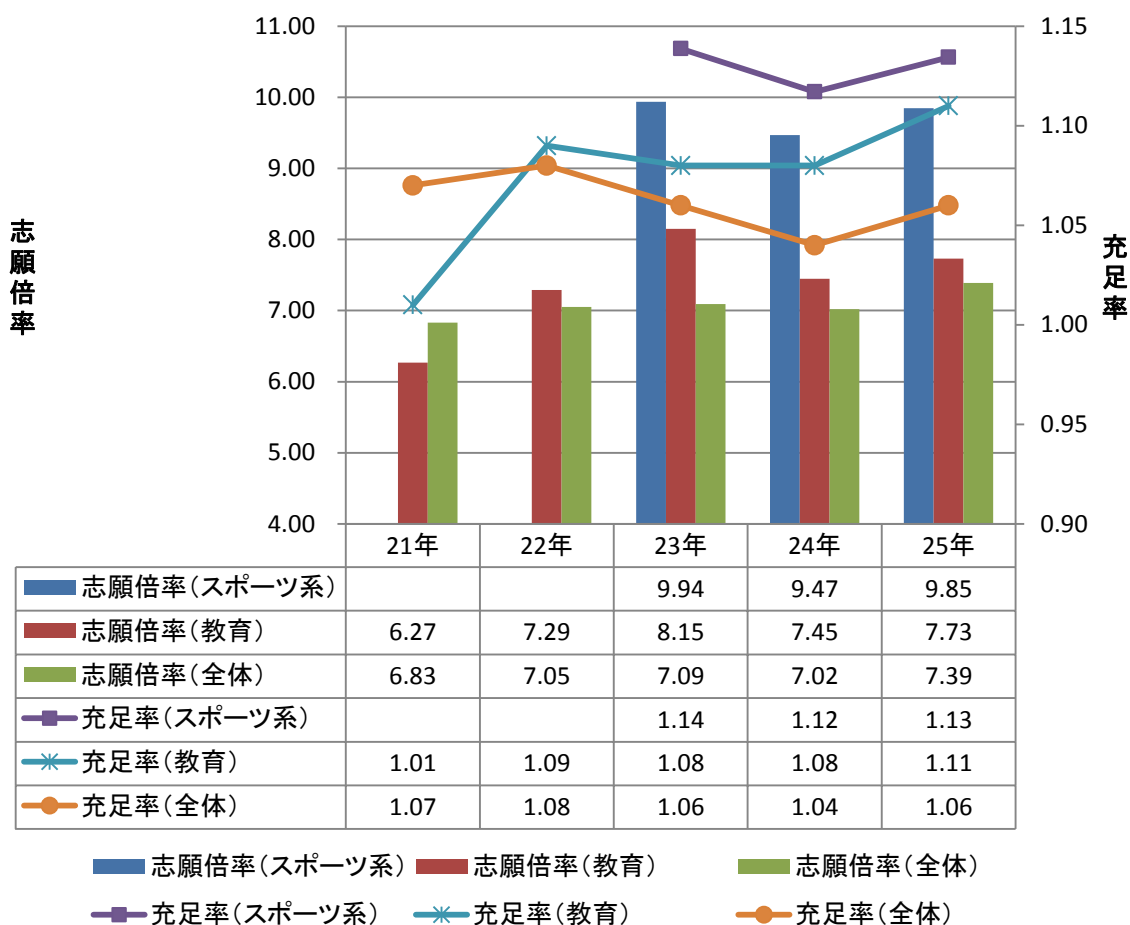
- 本学科の教育研究上の目的が社会的ニーズを踏まえたものであること。
- 主な進路として想定される小学校教諭及び幼稚園教諭の採用が、継続的に見込めること。
- 第三者機関による調査の結果、約75%の企業等から必要性を認められ、入学定員分の採用が見込めること。

したがって、こどもスポーツ教育学科の設置は、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであり、卒業生の卒業後の進路は十分に確保できると結論付けることができる。

学生確保の見通し等を記載した書類 別添資料目次

- 資料① スポーツ系・教育系学部の入学志願動向
- 資料② 愛知県におけるスポーツ系学部の平成 25 年度入試状況
- 資料③ 愛知県における教育系学部一覧（入学定員順）
- 資料④ 名古屋学院大学 入学定員超過の状況
- 資料⑤ 入学意向及び採用意向調査に係るパンフレット
- 資料⑥ 名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告
- 資料⑦ 年齢別小学校教員数
- 資料⑧ 公立小学校教員採用数推移
- 資料⑨ 公立小学校教員採用数推移（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）
- 資料⑩ 教員の年齢構成（幼稚園）
- 資料⑪ 幼稚園教員採用数の推移
- 資料⑫ 名古屋学院大学就職状況
- 資料⑬ 名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）の卒業生に
対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告書

スポーツ系・教育系学部の入学志願動向



出展：『私立大学・短期大学等 入学志願動向』日本私立学校振興・共済事業団

資料②

愛知県におけるスポーツ系学部の平成25年度入試状況

大学名	学部名	学科名	入学定員	志願者	合格者	倍率	入学者	充足率
至学館大学	健康科学部	健康スポーツ科学科	120	782	198	3.9	153	1.28
中京大学	スポーツ科学部	スポーツ健康科学科	80	2,252	206	10.9	90	1.13
		競技スポーツ科学科	255	1,818	500	3.6	281	1.10
		スポーツ教育学科	130	2,364	356	6.6	154	1.18
東海学園大学	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	235	1,610	519	3.1	301	1.28
名古屋学院大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	120	571	284	2.0	154	1.28
合 計			940	9,397	2,063	4.6	1,133	1.21

注)大学受験パスナビ(<http://passnavi.evidus.com/>)のデータを基に作成

愛知県における教育系学部一覧(入学定員順)

連番	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学者	充足率	備考
1	愛知教育大学	教育学部	初等教育学科	392	423	1.07	
2	名古屋女子大学	文学部	児童教育学科(児童教育学専攻)	280	271	0.96	
			児童教育学科(幼児保育学専攻)				
3	名古屋学芸大学	ヒューマンケア学部	子どもケア学科(幼児保育専攻)	220	236	1.07	他専攻を含む定員
4	愛知学泉大学	家政学部	家政学科(こどもの生活専攻)	190	203	1.06	他専攻を含む定員
5	同朋大学	社会福祉学部	社会福祉学科(子ども学専攻)	190	190	1.00	他専攻を含む定員
6	日本福祉大学	子ども発達学部	こども発達学科(保育専修)	180	191	1.06	
			こども発達学科(学校教育専修)				
7	相山女学園大学	教育学部	子ども発達学科(保育・初等教育専修)	160	170	1.06	
			子ども発達学科(初等中等教育専修)				
8	東海学園大学	教育学部	教育学科(学校教育専攻)	150	203	1.35	
			教育学科(保育専攻)				
9	桜花学園大学	保育学部	保育学科	145	138	0.95	
10	名古屋芸術大学	人間発達学部	子ども発達学科	140	143	1.02	
11	愛知淑徳大学	福祉貢献学部	福祉貢献学科(子ども福祉専攻)	120	144	1.20	他専攻を含む定員
12	金城学院大学	人間科学部	現代子ども学科	120	126	1.05	
13	愛知淑徳大学	文学部	教育学科	100	121	1.21	
14	岡崎女子大学	子ども教育学部	子ども教育学科	100	63	0.63	
15	名古屋経済大学	人間生活科学部	教育保育学科	100	48	0.48	
16	中部大学	現代教育学部	児童教育学科	80	85	1.06	
			幼児教育学科	80	95	1.18	
17	至学館大学	健康科学部	こども健康・教育学科	60	74	1.23	
18	名古屋市立大学	人文社会学部	心理教育学科	59	不明	不明	
19	愛知東邦大学	人間学部	子ども発達学科	50	56	1.12	
20	愛知県立大学	教育福祉学部	教育発達学科	40	40	1.00	
合 計				2,956	2,980	1.02	

注1)こどもスポーツ教育学科の志願動向を分析するため、幼稚園又は小学校教諭免許状を取得できる学部を抽出した。

注2)入学定員及び入学者は各大学のホームページを基に平成25年度の数値を記載。□

○名古屋学院大学 入学定員超過の状況

学部等名	項目	26年度	25年度	24年度	23年度	平均入学 定員超過率
経済学部 (合計)	入学定員超過率	(0.96)	(1.00)	(0.87)	(1.04)	
	入学者数	434	454	393	468	(0.96)
	入学定員	450	450	450	450	
経済学科	入学定員超過率	(1.04)	(1.07)	(0.88)	(1.01)	
	入学者数	312	322	264	304	(1.00)
	入学定員	300	300	300	300	
総合政策学科	入学定員超過率	(0.81)	(0.88)	(0.86)	(1.09)	
	入学者数	122	132	129	164	(0.91)
	入学定員	150	150	150	150	
商学部 (合計)	入学定員超過率	(1.06)	(1.19)	(0.99)	(1.18)	
	入学者数	320	358	297	355	(1.10)
	入学定員	300	300	300	300	
商学科	入学定員超過率	(1.18)	(1.23)	(0.93)	(1.16)	
	入学者数	236	246	187	232	(1.12)
	入学定員	200	200	200	200	
経営情報学科	入学定員超過率	(0.84)	(1.12)	(1.10)	(1.23)	
	入学者数	84	112	110	123	(1.07)
	入学定員	100	100	100	100	
法学部 (合計)	入学定員超過率	(1.01)	(1.14)			
	入学者数	152	172			(1.07)
	入学定員	150	150			
法学科	入学定員超過率	(1.01)	(1.14)			
	入学者数	152	172			(1.07)
	入学定員	150	150			
外国語学部 (合計)	入学定員超過率	(1.07)	(1.04)	(1.07)	(1.05)	
	入学者数	258	250	258	252	(1.05)
	入学定員	240	240	240	240	
英米語学科	入学定員超過率	(1.27)	(1.11)	(1.16)	(0.99)	
	入学者数	179	156	163	139	(1.13)
	入学定員	140	140	140	140	
中国コミュニケーション学科	入学定員超過率	(0.46)	(0.74)	(0.82)	(1.16)	
	入学者数	23	37	41	58	(0.79)
	入学定員	50	50	50	50	
国際文化協力量科	入学定員超過率	(1.12)	(1.14)	(1.08)	(1.10)	
	入学者数	56	57	54	55	(1.11)
	入学定員	50	50	50	50	
スポーツ健康学部 (合計)	入学定員超過率	(1.38)	(1.28)	(1.09)	(1.09)	
	入学者数	166	154	131	109	(1.21)
	入学定員	120	120	120	100	
スポーツ健康学科	入学定員超過率	(1.38)	(1.28)	(1.09)	(1.09)	
	入学者数	166	154	131	109	(1.21)
	入学定員	120	120	120	100	
リハビリテーション学部 (合計)	入学定員超過率	(1.18)	(1.20)	(1.01)	(1.16)	
	入学者数	95	96	81	93	(1.13)
	入学定員	80	80	80	80	
理学療法学科	入学定員超過率	(1.18)	(1.20)	(1.01)	(1.16)	
	入学者数	95	96	81	93	(1.13)
	入学定員	80	80	80	80	
合 計	入学定員超過率	(1.06)	(1.10)	(0.97)	(1.09)	
	入学者数	1,425	1,484	1,160	1,277	(1.05)
	入学定員	1,340	1,340	1,190	1,170	

資料⑤

2015年4月、
名古屋学院大学に
新たな学部・学科が
誕生する予定です。



現代社会学部 現代社会学科 (仮称) 定員数150名

国際文化学部 国際文化学科 (仮称) 定員数80名

国際協力学科 (仮称) 定員数50名

スポーツ健康学部 こどもスポーツ教育学科 (仮称) 定員数50名

学部・学科の概要等は予定であり、変更される場合があります。


 名古屋学院大学



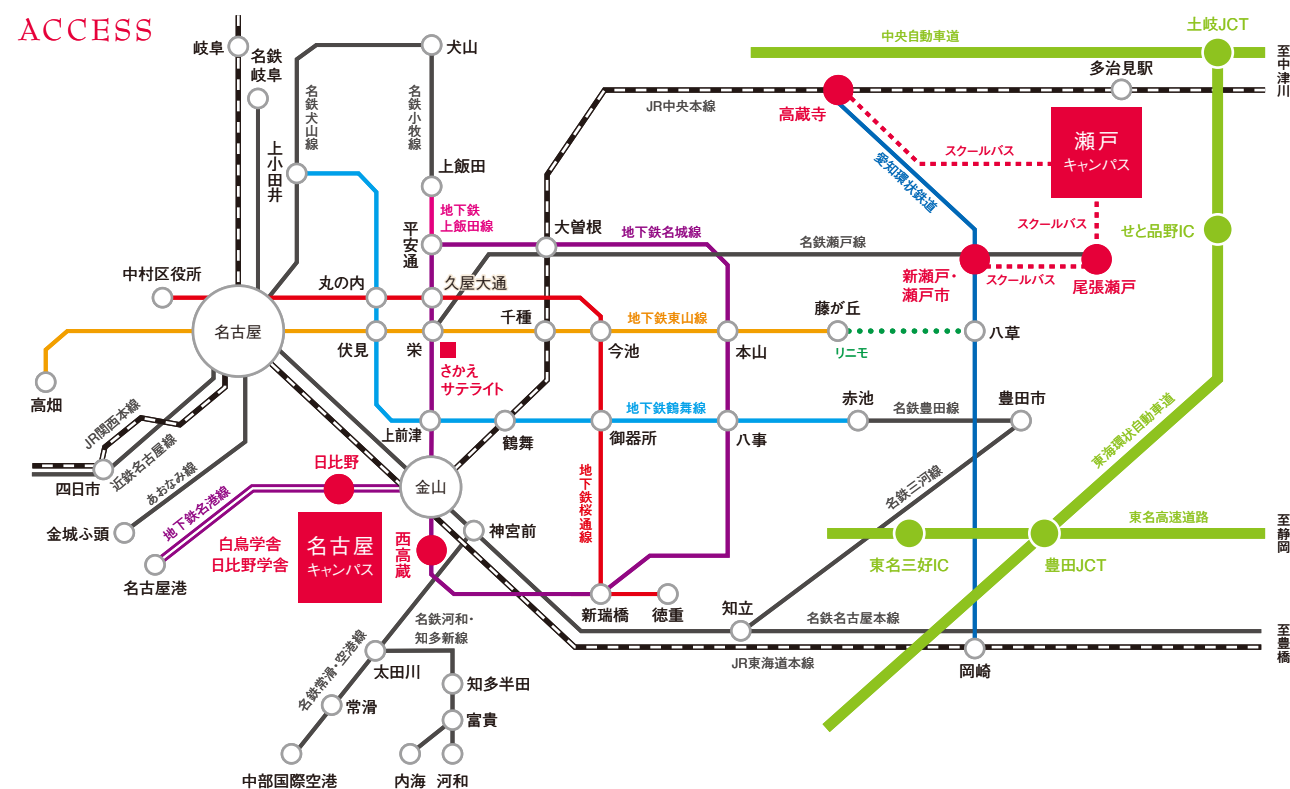
名古屋キャンパス

名古屋市のほぼ中心に位置し、名古屋駅・栄エリアにも近く通学に便利な都市型キャンパス。メインとなる白鳥学舎は白鳥公園に隣接しており、都心にありながらも自然を身近に感じられる開放的なキャンパスです。



瀬戸キャンパス

瀬戸市の丘陵地にあり、自然に囲まれた緑豊かなキャンパス。広大な敷地を活かしたスポーツ施設や実習施設が充実しています。キャンパスまでは新瀬戸・瀬戸市・尾張瀬戸・高蔵寺の各駅から無料スクールバスを運行しています。



名古屋キャンパス 白鳥学舎 地下鉄名港線「日比野」駅、 名城線「西高蔵」駅から徒歩約8分	名古屋キャンパス 日比野学舎 地下鉄名港線「日比野」5番出口すぐ	瀬戸キャンパス JR中央本線「高蔵寺」駅、名鉄瀬戸線「新瀬戸」駅、愛知環状鉄道「瀬戸市」駅から無料スクールバスで約30分 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から無料スクールバスで約25分
---	--	---

名古屋学院大学

名古屋キャンパス
 [白鳥学舎] 名古屋市熱田区熱田西町1-25
 [日比野学舎] 名古屋市熱田区大宝3-1-17

瀬戸キャンパス
 愛知県瀬戸市上品野1350

名古屋キャンパス

経済学部 経済学科
 現代社会学部 現代社会学科 (仮称)
 商学部 商学科／経営情報学科
 法学部 法学科
 外国語学部 英米語学科
 国際文化学部 国際文化学科 (仮称)／国際協力学科 (仮称)

瀬戸キャンパス

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科
 こどもスポーツ教育学科 (仮称)
 リハビリテーション学部 理学療法学科

2015年4月、名古屋学院大学に新たな学部・学科が誕生する予定です。

名古屋学院大学は、「敬神愛人」の精神を尊重するキリスト教主義の大学です。高い志と豊かな国際感覚を備えた、社会の発展に貢献する人材の育成を使命とし、教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。

現代社会学部 現代社会学科 (仮称)

こんな人を育てます

現代社会のさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識を備え、課題発見・問題解決のために積極的に行動する人材を養成します。



学びの
特色
1

現代社会を学ぶ4つの視点

「人間社会と心理」「経済社会と企業」「社会制度と政策」「社会生活と地域」の4分野をととして現代社会を学びます。

学びの
特色
2

キャンパスから飛び出し、問題解決能力を養う「プロジェクト演習」

教員が提示するテーマに対し、学生は少人数のチームを編成し、現場調査や市町村との連携などをととして問題解決に取り組みます。

学びの
特色
3

学生が主体的に参加する教育イベント

1年次から4年次まで段階的に、学びの成果を発表するフォーラムなどを開催し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成します。

取得可能な資格

●中学校教諭1種(社会) ●高等学校教諭1種(公民) ●社会調査士

予想される主な就職先

●一般企業 ●公務員 ●医療法人・社会福祉法人・NPO・公益法人 など

国際文化学部 (仮称)

学びの特色1

言語コミュニケーション力の養成

国際的な言語である英語の運用能力を高めるとともに、第二外国語(中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)も必修とし、基本的な会話を修得します。

学びの特色2

グローバル社会における日本文化を見つめ直す

異文化・多文化の理解の前提として、日本史や日本文化など日本理解教育を重視。自らと多文化との関係性の上に共生社会を理解できるようにします。

学びの特色3

海外フィールドスタディ

半期の事前・事後学習と夏季休暇中の現地学習を組み合わせたプログラムを1年次から用意。異文化理解と交流、文化協力・文化支援について実践的に学びます。

※別途費用が必要です。



国際文化学科 (仮称)



こんな人を育てます

グローバル社会における地域文化の多様性を理解するとともに、文化交流を実践し、多文化共生を背景とした持続可能な社会の形成に貢献する人材を育てます。

国際文化理解・交流を中心に展開

ヨーロッパ、アメリカ、アジア(特に日本・中国)など国際文化の多様な実情に触れ、国際文化の理解と多文化交流を中心に学びます。海外フィールドスタディのみならず、日本国内の都市や地域でのフィールドワークも実施します。

取得可能な資格

●中学校教諭1種(英語) ●高等学校教諭1種(英語)

予想される主な就職先

●観光・旅行・貿易・流通等の一般企業 ●地域および外国人支援行政
●多文化交流事業(NPO) ●民間国際協力団体(NGO)
●中学校・高等学校の英語教員 など

国際協力学科 (仮称)



こんな人を育てます

国際文化と多文化共生についての理解の上に、個別地域社会や多文化社会との積極的な交流をととして、国際文化協力や国際文化支援を実践できる人材を養成します。

国際文化協力・文化支援を重視

文化交流を基礎とした国際協力のあり方を理解し、文化協力や文化支援について学びます。海外フィールドスタディでは、東南アジアの発展途上国を対象エリアとし、NPOや国際機関でインタビューや作業体験を実施する予定です。

取得可能な資格

●中学校教諭1種(英語) ●高等学校教諭1種(英語)

予想される主な就職先

●国際・海外事業を展開する一般企業 ●国際機関
●民間国際協力団体(NGO) ●地域行政
●中学校・高等学校の英語教員 など

スポーツ健康学部 こどもスポーツ教育学科 (仮称)

こんな人を育てます

こどもの成長・発達やスポーツに関する専門知識を備え、幼少期からの一貫した運動・スポーツ教育をととして健康的な生活の構築に貢献する人材を養成します。



学びの
特色
1

こどもに関する多彩な学び

同一学部のスポーツ健康学科との相乗効果により、健康科学、スポーツ科学、スポーツ実技などの学習を土台とし、幼少期のスポーツや教育に関する科目を幅広く学ぶことができます。

学びの
特色
2

こどもの健康に関する指導者、幼稚園・小学校教員の養成

学びの成果を地域社会、健康関連企業、幼稚園、小学校および家庭で活かし、教育・指導にあたることができるようカリキュラムを組んでいます。

学びの
特色
3

地域連携による体験学習

近隣自治体と連携し、幼児・児童の体力測定や運動指導を行うほか、学生が補助教員として授業にアシスタントとして入るなど、地域に根ざしたプログラムを用意します。

取得可能な資格

●レクリエーションインストラクター ●スポーツリーダー
●ジュニアスポーツ指導員 ●小学校教諭1種 ●幼稚園教諭1種

予想される主な就職先

●幼児や児童を対象としたスポーツ産業 ●一般のスポーツジム
●健康産業を含む一般企業 ●幼稚園教員、小学校教員 など

3つの特色 (全学部・学科共通)

新設予定の学部・学科では、既存の学部・学科同様、右の3つの特色のもとに教育を実践していきます。

特色 1

4年間の演習をととしての一貫した教育・指導体制

いずれの学部・学科も、1年次から4年次まで少人数の演習(ゼミ)を必修科目として配置し、討論、プレゼンテーション、レポート作成などをととして卒業研究をまとめます。



特色 2

学生個々との双方向での教育・指導

本学独自のICTシステムであるCCS(キャンパス・コミュニケーション・サービス)を駆使し、演習とあわせてきめ細かい個人指導を行います。



特色 3

キャリア形成支援プログラム

1年次から3年次まで段階的に開講される「キャリアデザイン」をととして、自己の適性や就職、進路などを考える機会を提供します。



学部・学科の概要等は予定であり、変更される場合があります。

名古屋学院大学

現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成26年4月

株式会社 ユー・イー・ディー研究所

名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 27 年 4 月に予定している名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の開設にむけて、設置年度の進学対象層に対する名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

名古屋学院大学に進学実績のある高等学校、または、近隣 4 県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）に所在する高等学校の在学者で平成 27 年度大学進学対象となる高校 2 年生

(3) 調査方法

①名古屋学院大学に進学実績のある高等学校、または、近隣 4 県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県）に所在する高等学校 74 校に 14,607 人分のアンケート用紙及び名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科についてのリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は第三者機関へ高校から直接郵送。

②名古屋学院大学学校説明会に参加するため来校した学生 19 名（1 校）に、アンケート用紙及び名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科についてのリーフレットを配布し、教室等でアンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は第三者機関へ名古屋学院大学から郵送。

この結果 70 校の高校生 11,913 人から回答があり、この内高校 2 年生 11,814 人から有効回答があった。

集計結果より、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月

(5) 調査対象者数等

調査対象者数：高等学校 75 校 14,626 人

有効回答者数：高等学校 70 校 11,913 人の回答の内、高校 2 年生 11,814 人

有効回収率：約 80.7%（有効回答者 11,814 人 ÷ 調査対象者 14,626 人）

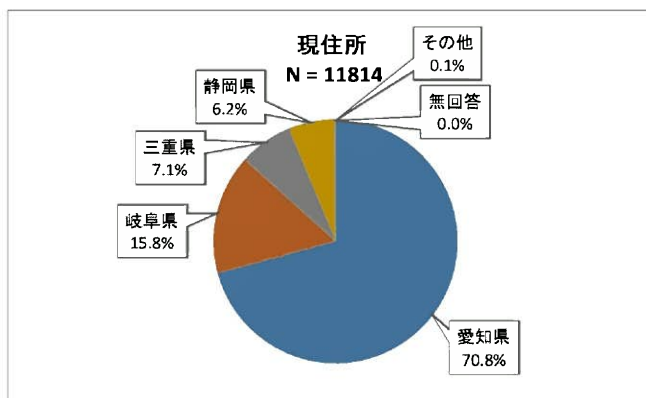
※名古屋学院大学にて設置を構想している現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科は全て仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 11,814 人の内、「愛知県」が 8,364 人（70.8%）と最も多かった。次いで「岐阜県」が 1,871 人（15.8%）、「三重県」835 人（7.1%）、「静岡県」733 人（6.2%）、「その他」7 人（0.1%）、「無回答」4 人（0.0%）の順になっている。

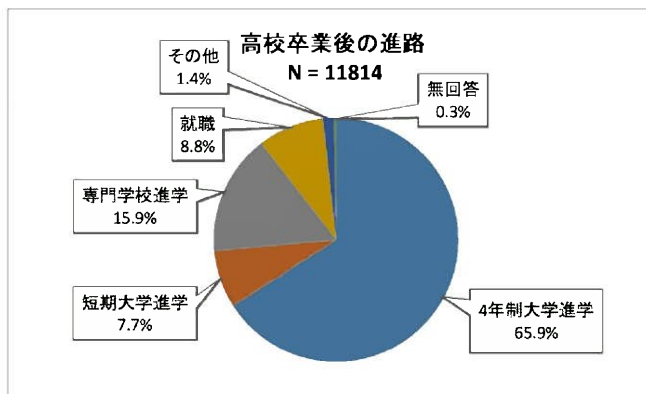
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	愛知県	8,364	70.8
2	岐阜県	1,871	15.8
3	三重県	835	7.1
4	静岡県	733	6.2
5	その他	7	0.1
	無回答	4	0.0
	N (%ベース)	11,814	100.0



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 11,814 人の内、7,788 人（65.9%）が「4 年制大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は 904 人（7.7%）、合わせて 8,692 人（73.6%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」1,878 人（15.9%）を合わせると、10,570 人（89.5%）が高等学校卒業後進学を希望している。

高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	7,788	65.9
2	短期大学進学	904	7.7
3	専門学校進学	1,878	15.9
4	就職	1,042	8.8
5	その他	166	1.4
	無回答	36	0.3
	N (%ベース)	11,814	100.0

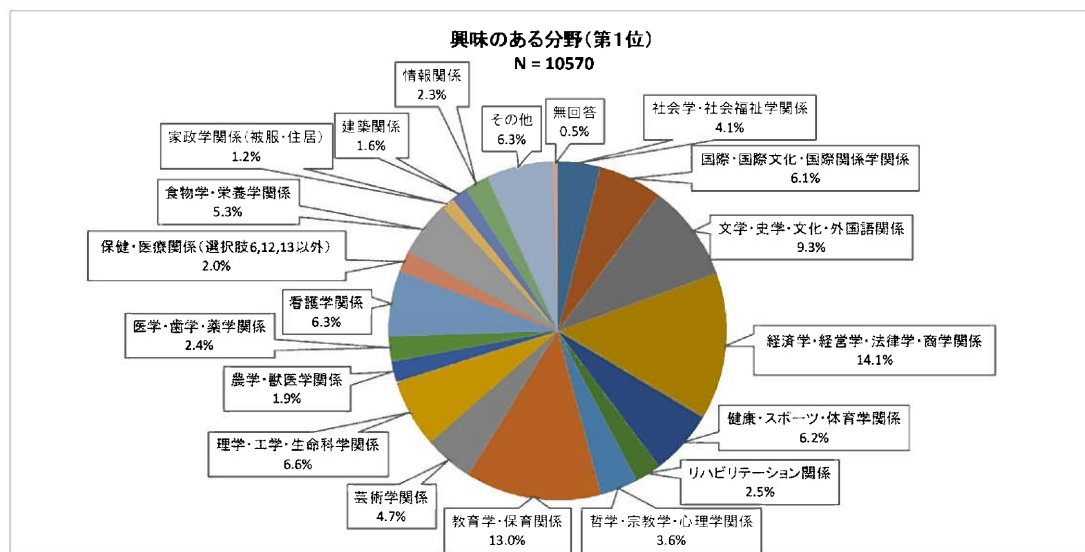


(3) 興味のある分野（第1位）について

3-1 興味のある分野（第1位）について

興味のある分野（第1位）においては「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する10,570人の内、「経済学・経営学・法律学・商学関係」が1,492人（14.1%）と最も多い。次いで「教育学・保育関係」1,374人（13.0%）、「文学・史学・文化・外国語関係」980人（9.3%）、「理学・工学・生命科学関係」696人（6.6%）の順になっている。

興味のある分野(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会学・社会福祉学関係	429	4.1
2	国際・国際文化・国際関係学関係	644	6.1
3	文学・史学・文化・外国語関係	980	9.3
4	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,492	14.1
5	健康・スポーツ・体育学関係	655	6.2
6	リハビリテーション関係	263	2.5
7	哲学・宗教学・心理学関係	384	3.6
8	教育学・保育関係	1,374	13.0
9	芸術学関係	498	4.7
10	理学・工学・生命科学関係	696	6.6
11	農学・獣医学関係	202	1.9
12	医学・歯学・薬学関係	256	2.4
13	看護学関係	664	6.3
14	保健・医療関係(選択肢6,12,13以外)	208	2.0
15	食物学・栄養学関係	560	5.3
16	家政学関係(被服・住居)	132	1.2
17	建築関係	164	1.6
18	情報関係	244	2.3
19	その他	668	6.3
	無回答	57	0.5
	N(%ベース)	10,570	100.0

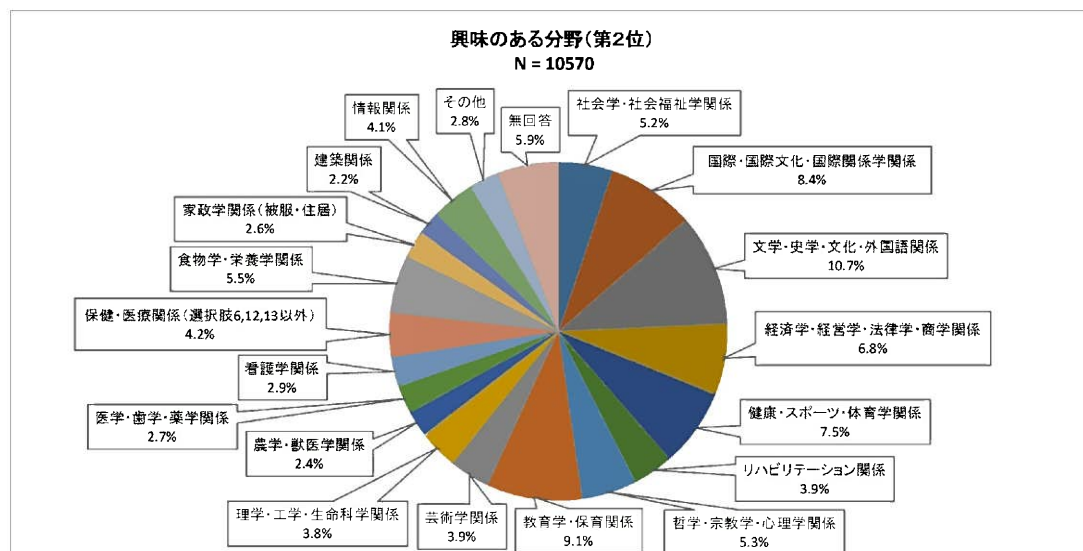


3-2 興味のある分野（第2位）について

興味のある分野（第2位）においては「4年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する10,570人の内、「文学・史学・文化・外国語関係」が1,130人（10.7%）と最も多い。次いで「教育学・保育関係」966人（9.1%）、「国際・国際文化・国際関係学関係」888人（8.4%）、「健康・スポーツ・体育学関係」788人（7.5%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」724人（6.8%）の順になっている。

興味のある分野(第2位)

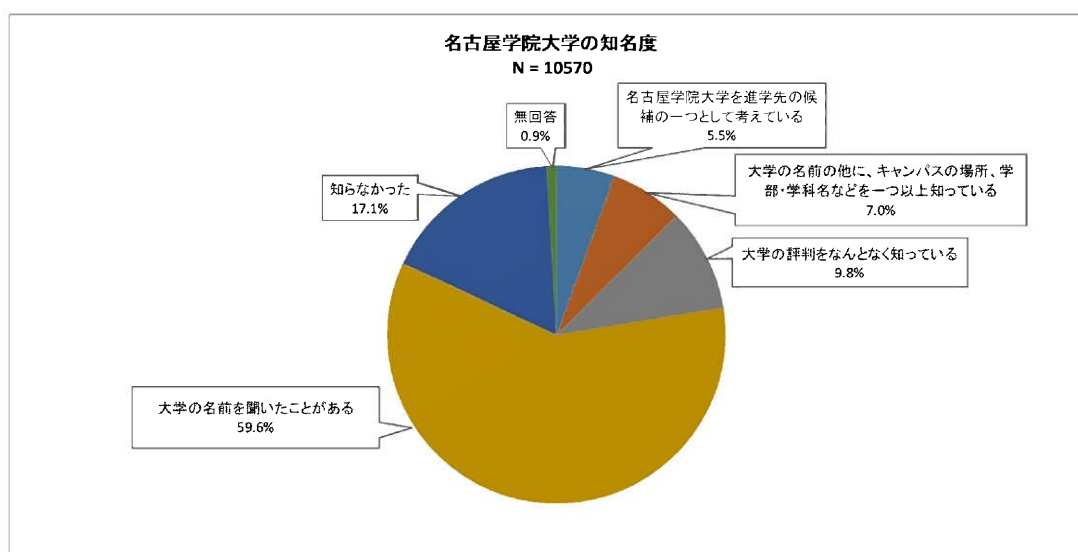
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会学・社会福祉学関係	547	5.2
2	国際・国際文化・国際関係学関係	888	8.4
3	文学・史学・文化・外国語関係	1,130	10.7
4	経済学・経営学・法律学・商学関係	724	6.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	788	7.5
6	リハビリテーション関係	409	3.9
7	哲学・宗教学・心理学関係	560	5.3
8	教育学・保育関係	966	9.1
9	芸術学関係	409	3.9
10	理学・工学・生命科学関係	405	3.8
11	農学・獣医学関係	257	2.4
12	医学・歯学・薬学関係	283	2.7
13	看護学関係	304	2.9
14	保健・医療関係(選択肢6,12,13以外)	444	4.2
15	食物学・栄養学関係	585	5.5
16	家政学関係(被服・住居)	278	2.6
17	建築関係	236	2.2
18	情報関係	437	4.1
19	その他	301	2.8
	無回答	619	5.9
	N(%ベース)	10,570	100.0



(4) 名古屋学院大学の知名度について

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,570 の内、名古屋学院大学の知名度について、「大学の名前を聞いたことがある」6,299 人（59.6%）が最も多く、次いで「知らなかった」1,806 人（17.1%）、「大学の評判をなんとなく知っている」1,041 人（9.8%）、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている」741 人（7.0%）、「名古屋学院大学を進学先の候補の一つとして考えている」585 人（5.5%）、「無回答」98 人（0.9%）の順になっている。

名古屋学院大学の知名度			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	名古屋学院大学を進学先の候補の一つとして考えている	585	5.5
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている	741	7.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	1,041	9.8
4	大学の名前を聞いたことがある	6,299	59.6
5	知らなかった	1,806	17.1
	無回答	98	0.9
	N（%ベース）	10,570	100.0

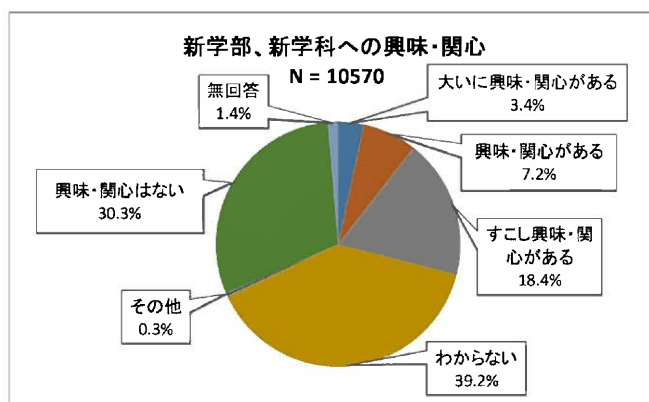


(5) 名古屋学院大学新学部、新学科への興味・関心について

「4 年制大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 10,570 人の内、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 355 人（3.4%）である。

また、「興味・関心がある」761 人（7.2%）、「すこし興味・関心がある」1,942 人（18.4%）と回答があり、「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」の調査結果を合算すると、合計 3,058 人（29.0%）が、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科に興味・関心を示している。

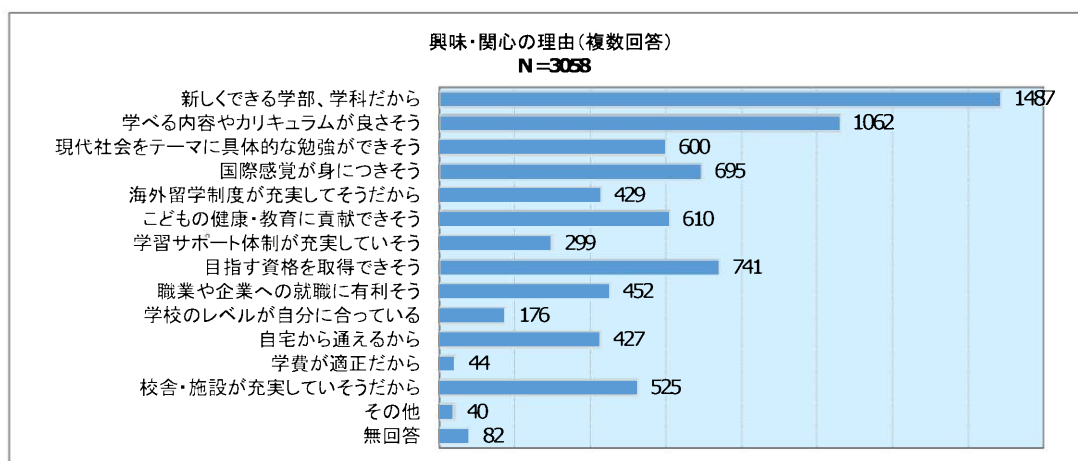
新学部、新学科への興味・関心			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	355	3.4
2	興味・関心がある	761	7.2
3	すこし興味・関心がある	1,942	18.4
4	わからない	4,139	39.2
5	その他	27	0.3
6	興味・関心はない	3,200	30.3
	無回答	146	1.4
	N (%ベース)	10,570	100.0



(6) 興味・関心の理由について（複数回答）

興味・関心の理由については、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科に興味・関心を示した 3,058 人の内、「新しくできる学部、学科だから」1,487 人（48.6%）が最も多かった。次いで、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」1,062 人（34.7%）、「目指す資格を取得できそう」741 人（24.2%）、「国際感覚が身につくそう」695 人（22.7%）、「こどもの健康・教育に貢献できそう」610 人（19.9%）、「現代社会をテーマに具体的な勉強ができそう」600 人（19.6%）、「校舎・施設が充実していそうだから」525 人（17.2%）、「職業や企業への就職に有利そう」452 人（14.8%）、「海外留学制度が充実していそうだから」429 人（14.0%）、「自宅から通えるから」427 人（14.0%）、「学習サポート体制が充実していそう」299 人（9.8%）、「学校のレベルが自分に合っている」176 人（5.8%）、「無回答」82 人（2.7%）、「学費が適正だから」44 人（1.4%）、「その他」40 人（1.3%）の順になっている。

興味・関心の理由（複数回答）			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しくできる学部、学科だから	1,487	48.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	1,062	34.7
3	現代社会をテーマに具体的な勉強ができそう	600	19.6
4	国際感覚が身につくそう	695	22.7
5	海外留学制度が充実していそうだから	429	14.0
6	こどもの健康・教育に貢献できそう	610	19.9
7	学習サポート体制が充実していそう	299	9.8
8	目指す資格を取得できそう	741	24.2
9	職業や企業への就職に有利そう	452	14.8
10	学校のレベルが自分に合っている	176	5.8
11	自宅から通えるから	427	14.0
12	学費が適正だから	44	1.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	525	17.2
14	その他	40	1.3
	無回答	82	2.7
	N（%ベース）	3,058	100.0



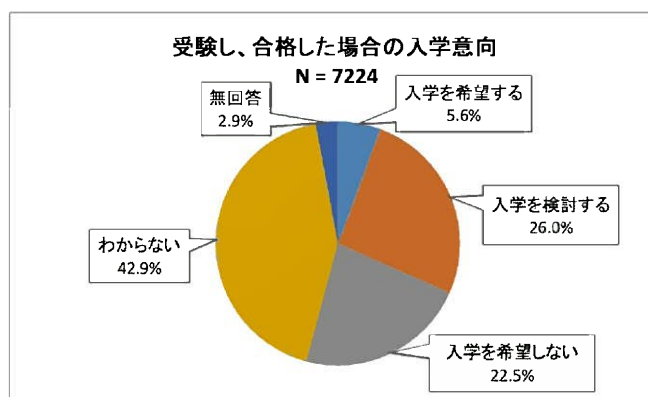
(7) 受験し、合格した場合の入学意向について

(5) にて調査した「名古屋学院大学新学部、新学科への興味・関心について」の設問にて、「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」「わからない」「その他」と回答した合計 7,224 人について、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」406 人（5.6%）、「入学を検討する」1,879 人（26.0%）となり、合計 2,285 人（31.6%）が入学意向を示した。

受験し、合格した場合の入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	406	5.6
2	入学を検討する	1,879	26.0
3	入学を希望しない	1,627	22.5
4	わからない	3,101	42.9
	無回答	211	2.9
	N (%ベース)	7,224	100.0

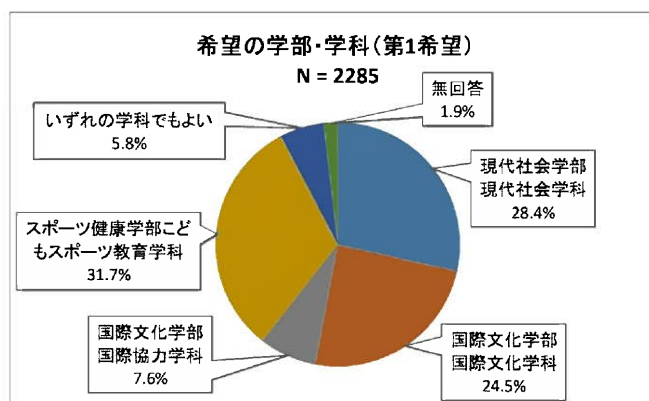


(8) 希望の学部・学科（第1希望）について

(7) にて調査した「受験し、合格した場合の入学意向について」の設問にて、「入学を希望する」406人、「入学を検討する」1,879人と回答した合計2,285人について、希望の学部・学科（第1希望）について調査した。

その結果は、「スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科」725人（31.7%）、「現代社会学部現代社会学科」650人（28.4%）、「国際文化学部国際文化学科」560人（24.5%）、「国際文化学部国際協力学科」174人（7.6%）、「いずれの学科でもよい」133人（5.8%）、「無回答」43人（1.9%）の順になっている。

希望の学部・学科(第1希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現代社会学部現代社会学科	650	28.4
2	国際文化学部国際文化学科	560	24.5
3	国際文化学部国際協力学科	174	7.6
4	スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科	725	31.7
5	いずれの学科でもよい	133	5.8
	無回答	43	1.9
	N (%ベース)	2,285	100.0



3. 調査結果のまとめ

「(7) 受験し、合格した場合の入学意向について」と、「(8) 希望の学部・学科（第 1 希望）について」の調査結果をクロス集計した結果は下表である。

		受験し、合格した場合の入学意向		
		入学を希望する	入学を検討する	合計
希望の学部・学科 (第1希望)	現代社会学部現代社会学科	152	498	650
	国際文化学部国際文化学科	95	465	560
	国際文化学部国際協力量科	32	142	174
	スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科	103	622	725
	いずれの学科でもよい	21	112	133
	無回答	3	40	43

①現代社会学部現代社会学科について

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 152 人となり、現代社会学部現代社会学科の入学定員 150 名に対し、約 1.01 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 650 人となり、現代社会学部現代社会学科の入学定員 150 名に対し、約 4.33 倍の入学意向を示している。

②国際文化学部国際文化学科について

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 95 人となり、国際文化学部国際文化学科の入学定員 100 名に対し、0.95 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 560 人となり、国際文化学部国際文化学科の入学定員 100 名に対し、5.6 倍の入学意向を示している。

③国際文化学部国際協力量科について

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 32 人となり、国際文化学部国際協力量科の入学定員 50 名に対し、0.64 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 174 人となり、国際文化学部国際協力量科の入学定員 50 名に対し、3.48 倍の入学意向を示している。

④スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科について

「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 103 人となり、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の入学定員 50 名に対し、2.06 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 725 人となり、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の入学定員 50 名に対し、14.5 倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられること、及び既存学科のこれまでの進学実績を十分に活用した場合、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の各学科の入学定員を満たす学生は確保できるものとする。

調査票

「名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、 スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）設置に係るアンケート調査」

- ・このアンケート調査は、2015 年 4 月に開設予定の新学部（現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称））、及び新学科（スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称））の設置計画の基礎資料にするため、高校 2 年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を直接解答欄へ記入してください。

名古屋学院大学において構想している学部及び学科〔予定〕

現代社会学部 現代社会学科（仮称）

授業料等：入学金 28 万円（初年次） 授業料 66 万円、施設設備費 30 万円（年間）

卒業後の進路：一般企業、公務員、医療法人・社会福祉法人・NPO・公益法人 など

国際文化学部 国際文化学科（仮称）

授業料等：入学金 28 万円（初年次） 授業料 79 万円、施設設備費 30 万円（年間） ※海外フィールドスタディ費用は別途必要。

卒業後の進路：観光・旅行・貿易・流通等の一般企業、地域および外国人支援行政、NPO、NGO、中学校・高等学校の英語教員 など

国際文化学部 国際協力学科（仮称）

授業料等：入学金 28 万円（初年次） 授業料 79 万円、施設設備費 30 万円（年間）※海外フィールドスタディ費用は別途必要。

卒業後の進路：国際・海外事業を展開する一般企業、国際機関、NGO、地域行政、中学校・高等学校の英語教員など

スポーツ健康学部 こどもスポーツ教育学科（仮称）

授業料等：入学金 28 万円（初年次） 授業料 79 万円、施設設備費 30 万円（年間）

卒業後の進路：幼児や児童を対象としたスポーツ産業、スポーツジム、健康産業を含む一般企業、幼稚園・小学校の教員 など

＊新学部・学科設置は計画中であり、学部・学科名称等については正式に決まったものではありません。

〔 あなたに関することについてお答えください 〕

【回答欄】

問 1 あなたの性別についておたずねします。

- 1 男子 2 女子

問 2 あなたの学年をおたずねします。

- 1 高校 2 年生 2 その他（ ）

問 3 あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

- 1 愛知県 2 岐阜県 3 三重県 4 静岡県 5 その他（ ）

問 4 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 4 年制大学進学
2 短期大学進学
3 専門学校進学
4 就職
5 その他（ ）

1、2、3 を選ばれた方は問 5 へお進みください。
4、5 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

問 5 あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第 2 位まで選んでください。

- | | | |
|-------------------|----------------------------|-------|
| 1 社会学・社会福祉学関係 | 11 農学・獣医学関係 | |
| 2 国際・国際文化・国際関係学関係 | 12 医学・歯学・薬学関係 | |
| 3 文学・史学・文化・外国語関係 | 13 看護学関係 | |
| 4 経済学・経営学・法学・商学関係 | 14 保健・医療関係（選択肢 6,12,13 以外） | 第 1 位 |
| 5 健康・スポーツ・体育学関係 | 15 食物学・栄養学関係 | |
| 6 リハビリテーション関係 | 16 家政学関係（被服・住居） | 第 2 位 |
| 7 哲学・宗教学・心理学関係 | 17 建築関係 | |
| 8 教育学・保育関係 | 18 情報関係 | |
| 9 芸術学関係 | 19 その他 | |
| 10 理学・工学・生命科学関係 | （具体的に ） | |

－裏面へお進みください－

ここからは新学部（現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称））、及び新学科（スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称））の概要（リーフレット）と新学部と類似する近隣の大学・学部・学科一覧をご覧ください。【回答欄】

- 問 6 あなたは名古屋学院大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。
- 1 名古屋学院大学を進学先の候補の一つとして考えている
 - 2 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている
 - 3 大学の評判をなんとなく知っている
 - 4 大学の名前を聞いたことがある
 - 5 知らなかった

☐

- 問 7 あなたは設置準備をしている名古屋学院大学の新学部、新学科について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他（具体的に
- 6 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 8 へお進み下さい
4、5 を選ばれた方は問 9 へお進み下さい
6 を選ばれた方は問 11 へお進み下さい

☐

- 問 8 問 7 で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 9 へお進みください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 新しくできる学部、学科だから | 8 目指す資格を取得できそう |
| 2 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 9 職業や企業への就職に有利そう |
| 3 現代社会をテーマに具体的な勉強ができそう | 10 学校のレベルが自分に合っている |
| 4 国際感覚が身につくそう | 11 自宅から通えるから |
| 5 海外留学制度が充実してそうだから | 12 学費が適正だから |
| 6 こどもの健康・教育に貢献できそう | 13 校舎・施設が充実していそうだから |
| 7 学習サポート体制が充実していそう | 14 その他（具体的に |

☐☐☐

- 問 9 設置準備をしている名古屋学院大学の新学部、新学科に合格された場合、新学部への入学について次の中から 1 つだけ選んでください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 入学を希望しない
- 4 わからない

1、2 を選ばれた方は問 10 へお進みください
3、4 を選ばれた方は問 11 へお進みください

☐

- 問 10 問 9 で「入学を希望する」「入学を検討する」と回答された方におたずねします。設置準備をしている名古屋学院大学の新学部、新学科のうち、どちらの学科に入学したいですか。第 3 希望まで選んでください。

- 1 現代社会学部現代社会学科（仮称） に入学したい
- 2 国際文化学部国際文化学科（仮称） に入学したい
- 3 国際文化学部国際協力量科（仮称） に入学したい
- 4 スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称） に入学したい
- 5 いずれの学科でもよい

第 1 希望

☐

第 2 希望

☐

第 3 希望

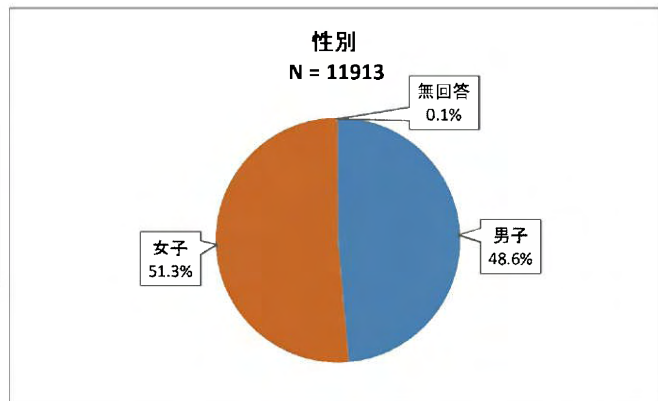
☐

- 問 11 名古屋学院大学の新学部、新学科の設置計画にあたって、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

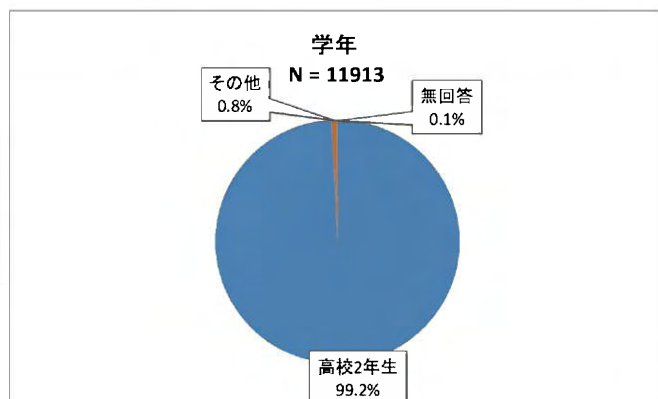
◆ご協力ありがとうございました

単純集計表

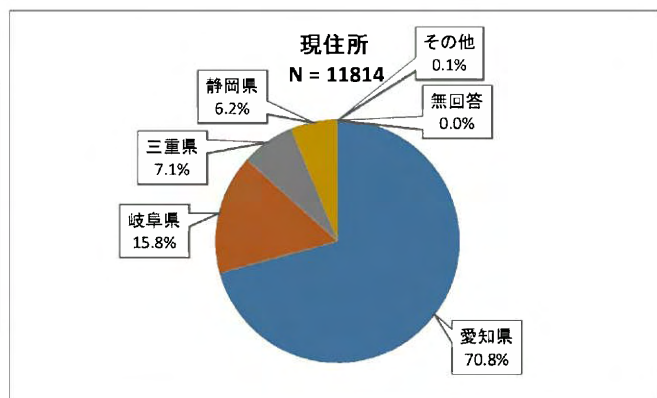
性別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	5,787	48.6
2	女子	6,117	51.3
	無回答	9	0.1
	N (%ベース)	11,913	100.0



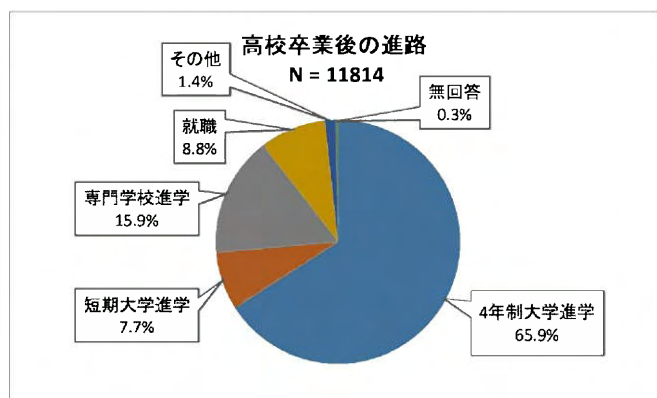
学年			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	11,814	99.2
2	その他	90	0.8
	無回答	9	0.1
	N (%ベース)	11,913	100.0



現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	愛知県	8,364	70.8
2	岐阜県	1,871	15.8
3	三重県	835	7.1
4	静岡県	733	6.2
5	その他	7	0.1
	無回答	4	0.0
	N (%ベース)	11,814	100.0



高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制大学進学	7,788	65.9
2	短期大学進学	904	7.7
3	専門学校進学	1,878	15.9
4	就職	1,042	8.8
5	その他	166	1.4
	無回答	36	0.3
	N (%ベース)	11,814	100.0

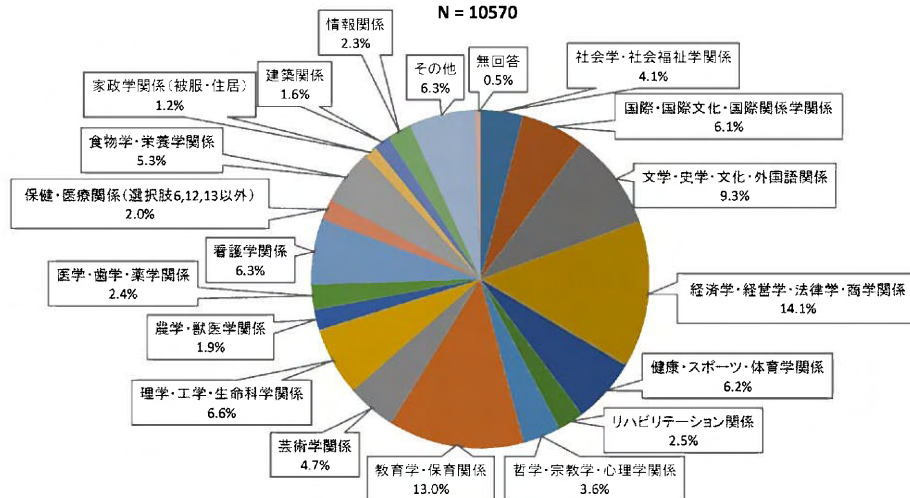


興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会学・社会福祉学関係	429	4.1
2	国際・国際文化・国際関係学関係	644	6.1
3	文学・史学・文化・外国語関係	980	9.3
4	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,492	14.1
5	健康・スポーツ・体育学関係	655	6.2
6	リハビリテーション関係	263	2.5
7	哲学・宗教学・心理学関係	384	3.6
8	教育学・保育関係	1,374	13.0
9	芸術学関係	498	4.7
10	理学・工学・生命科学関係	696	6.6
11	農学・獣医学関係	202	1.9
12	医学・歯学・薬学関係	256	2.4
13	看護学関係	664	6.3
14	保健・医療関係(選択肢6,12,13以外)	208	2.0
15	食物学・栄養学関係	560	5.3
16	家政学関係(被服・住居)	132	1.2
17	建築関係	164	1.6
18	情報関係	244	2.3
19	その他	668	6.3
	無回答	57	0.5
	N (%ベース)	10,570	100.0

興味のある分野(第1位)

N = 10570

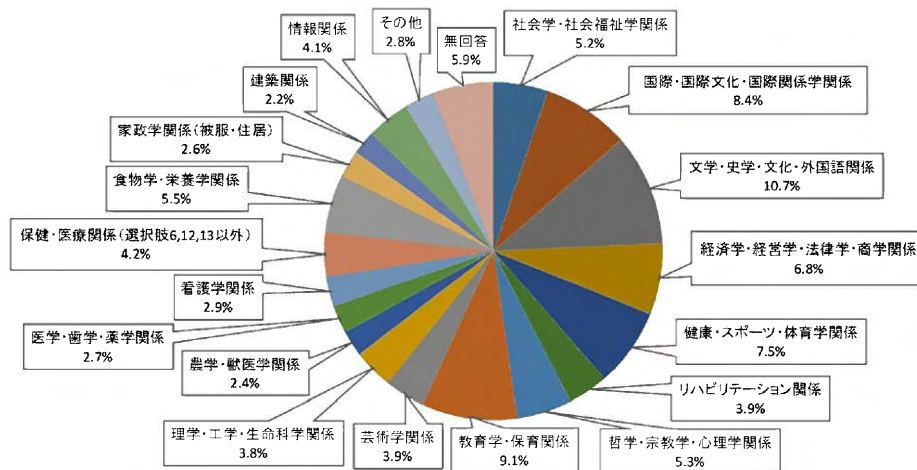


興味のある分野(第2位)

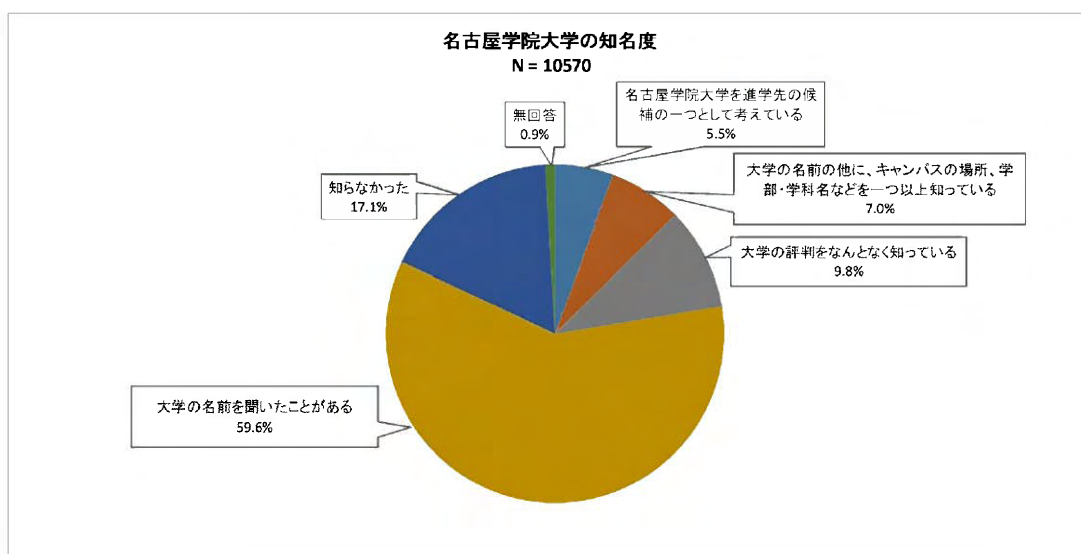
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会学・社会福祉学関係	547	5.2
2	国際・国際文化・国際関係学関係	888	8.4
3	文学・史学・文化・外国語関係	1,130	10.7
4	経済学・経営学・法律学・商学関係	724	6.8
5	健康・スポーツ・体育学関係	788	7.5
6	リハビリテーション関係	409	3.9
7	哲学・宗教学・心理学関係	560	5.3
8	教育学・保育関係	966	9.1
9	芸術学関係	409	3.9
10	理学・工学・生命科学関係	405	3.8
11	農学・獣医学関係	257	2.4
12	医学・歯学・薬学関係	283	2.7
13	看護学関係	304	2.9
14	保健・医療関係(選択肢6,12,13以外)	444	4.2
15	食物学・栄養学関係	585	5.5
16	家政学関係(被服・住居)	278	2.6
17	建築関係	236	2.2
18	情報関係	437	4.1
19	その他	301	2.8
	無回答	619	5.9
	N (%ベース)	10,570	100.0

興味のある分野(第2位)

N = 10570

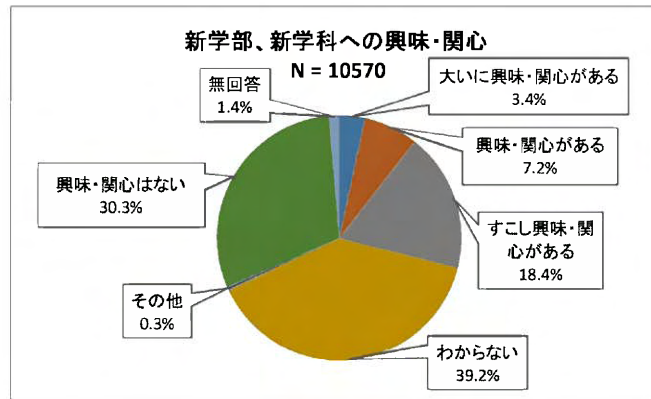


名古屋学院大学の知名度			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	名古屋学院大学を進学先の候補の一つとして考えている	585	5.5
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科名などを一つ以上知っている	741	7.0
3	大学の評判をなんとなく知っている	1,041	9.8
4	大学の名前を聞いたことがある	6,299	59.6
5	知らなかった	1,806	17.1
	無回答	98	0.9
	N (%ベース)	10,570	100.0

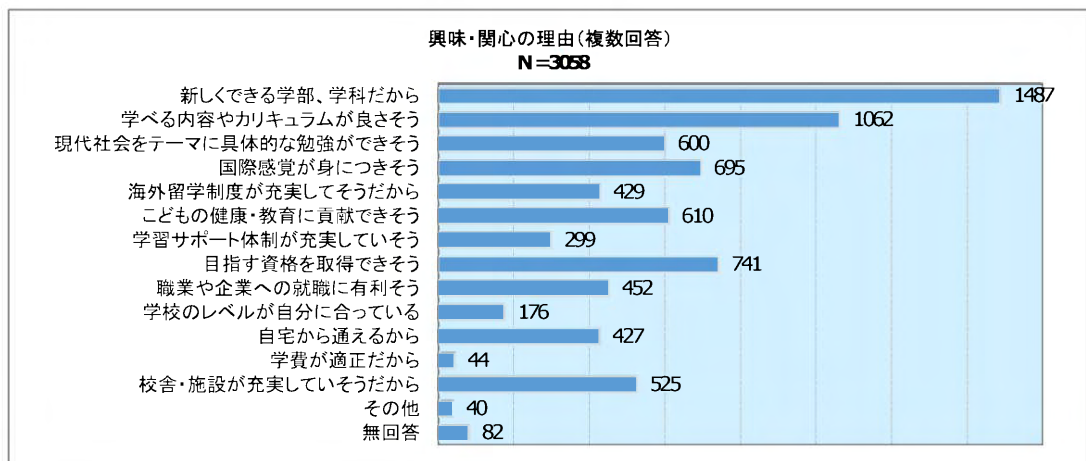


新学部、新学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	355	3.4
2	興味・関心がある	761	7.2
3	すこし興味・関心がある	1,942	18.4
4	わからない	4,139	39.2
5	その他	27	0.3
6	興味・関心はない	3,200	30.3
	無回答	146	1.4
	N (%ベース)	10,570	100.0



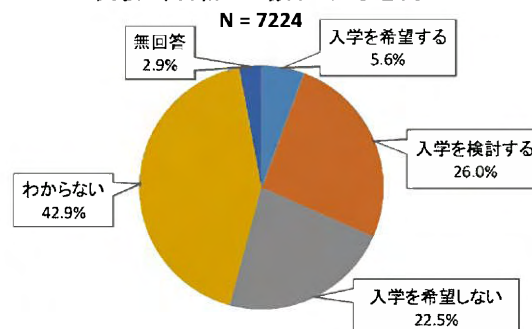
興味・関心の理由(複数回答)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	新しくできる学部、学科だから	1,487	48.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそう	1,062	34.7
3	現代社会をテーマに具体的な勉強ができそう	600	19.6
4	国際感覚が身につけそう	695	22.7
5	海外留学制度が充実しそうだから	429	14.0
6	こどもの健康・教育に貢献できそう	610	19.9
7	学習サポート体制が充実していそう	299	9.8
8	目指す資格を取得できそう	741	24.2
9	職業や企業への就職に有利そう	452	14.8
10	学校のレベルが自分に合っている	176	5.8
11	自宅から通えるから	427	14.0
12	学費が適正だから	44	1.4
13	校舎・施設が充実していそうだから	525	17.2
14	その他	40	1.3
	無回答	82	2.7
	N (%ベース)	3,058	100.0



受験し、合格した場合の入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	406	5.6
2	入学を検討する	1,879	26.0
3	入学を希望しない	1,627	22.5
4	わからない	3,101	42.9
	無回答	211	2.9
	N (%ベース)	7,224	100.0

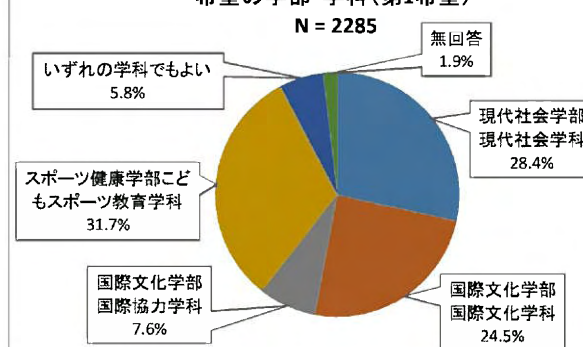
受験し、合格した場合の入学意向



希望の学部・学科(第1希望)

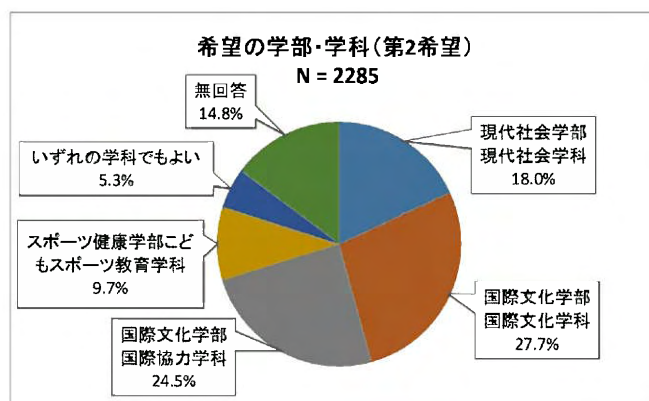
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現代社会学部現代社会学科	650	28.4
2	国際文化学部国際文化学科	560	24.5
3	国際文化学部国際協力量科	174	7.6
4	スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科	725	31.7
5	いずれの学科でもよい	133	5.8
	無回答	43	1.9
	N (%ベース)	2,285	100.0

希望の学部・学科(第1希望)



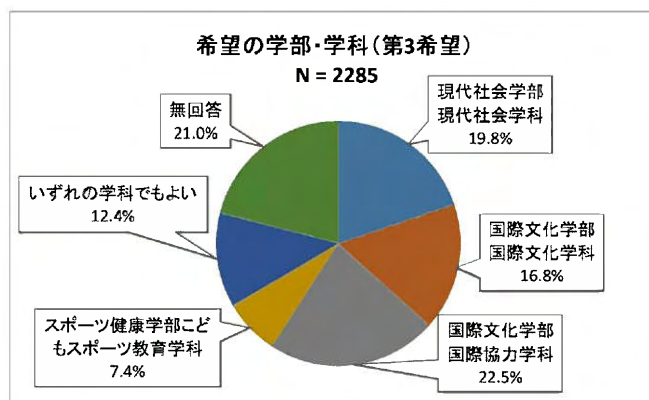
希望の学部・学科(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現代社会学部現代社会学科	412	18.0
2	国際文化学部国際文化学科	632	27.7
3	国際文化学部国際協力量科	560	24.5
4	スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科	222	9.7
5	いずれの学科でもよい	120	5.3
	無回答	339	14.8
	N (%ベース)	2,285	100.0

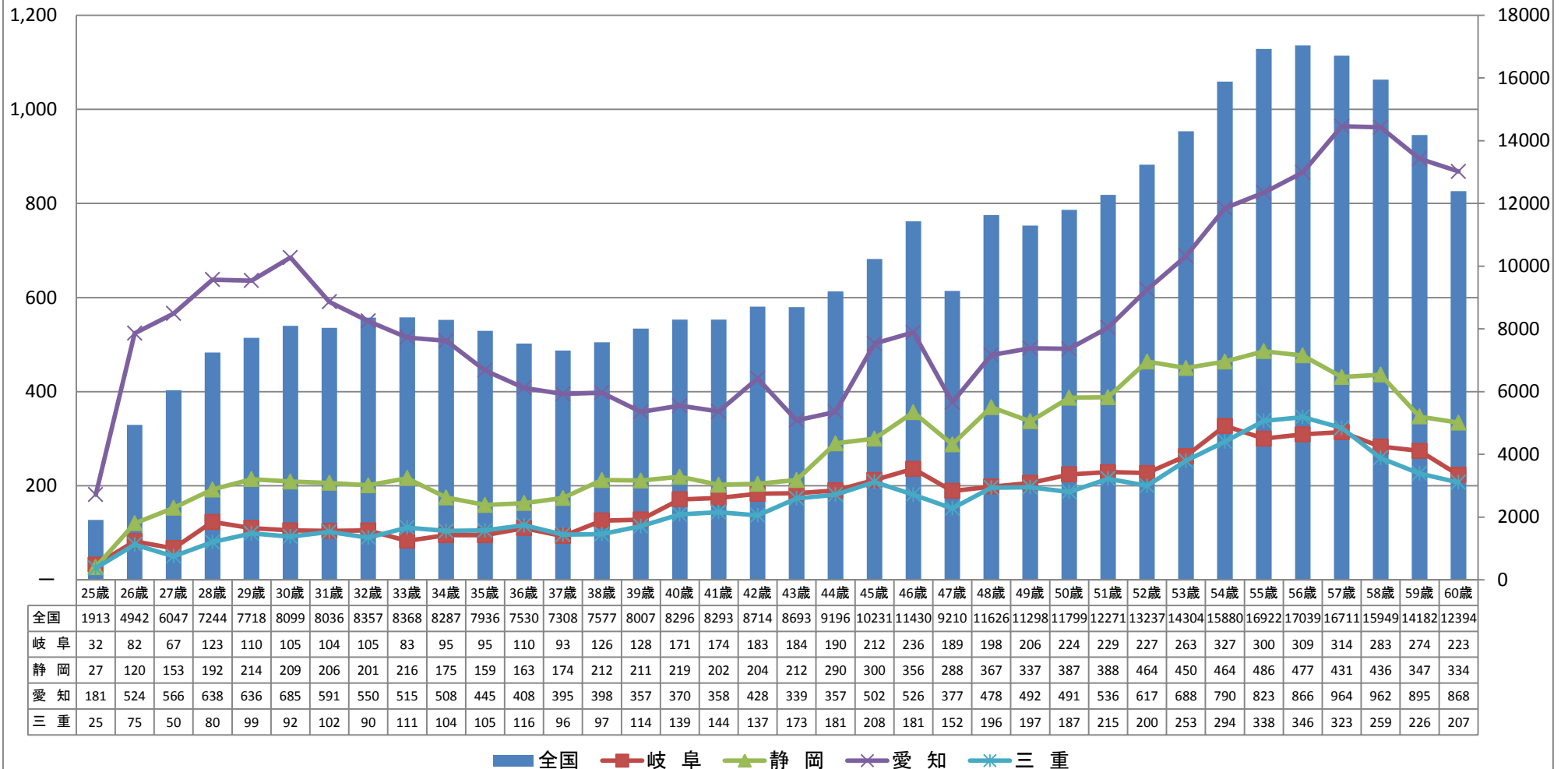


希望の学部・学科(第3希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	現代社会学部現代社会学科	452	19.8
2	国際文化学部国際文化学科	385	16.8
3	国際文化学部国際協力量科	514	22.5
4	スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科	170	7.4
5	いずれの学科でもよい	284	12.4
	無回答	480	21.0
	N (%ベース)	2,285	100.0

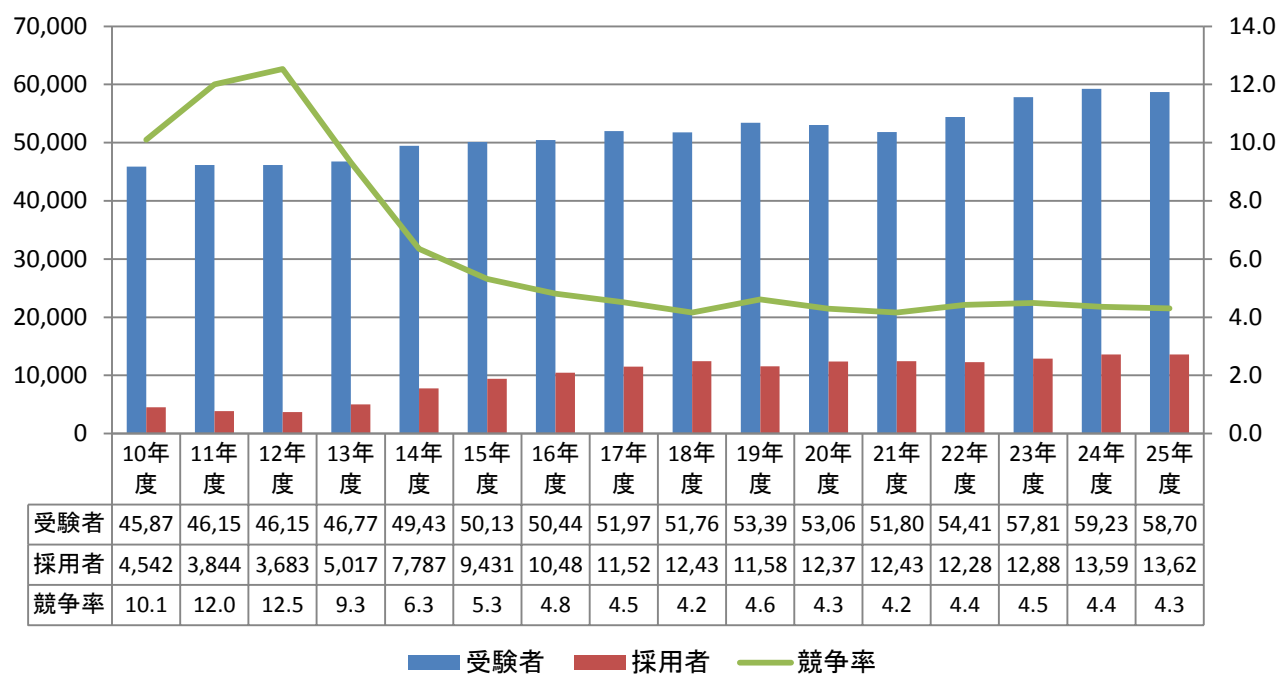


年齢別小学校教員数



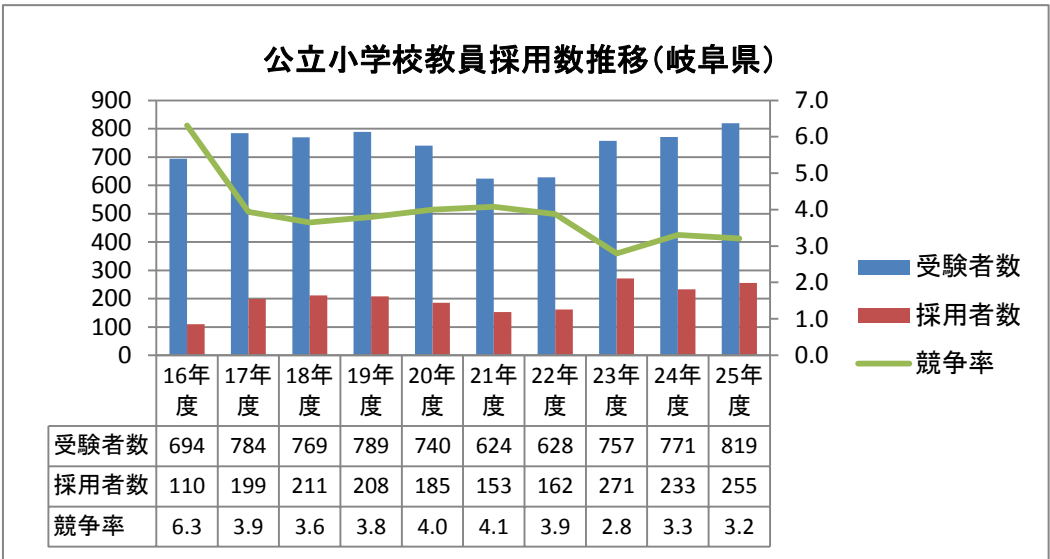
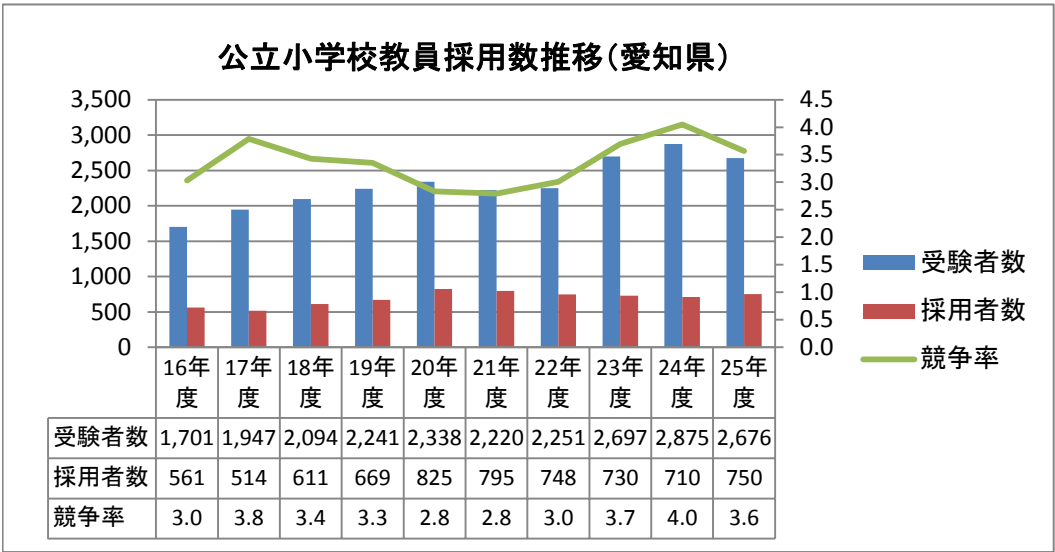
注)平成22年度学校教員統計調査を基に作成。年齢は平成25年10月時点。

公立小学校教員採用数推移

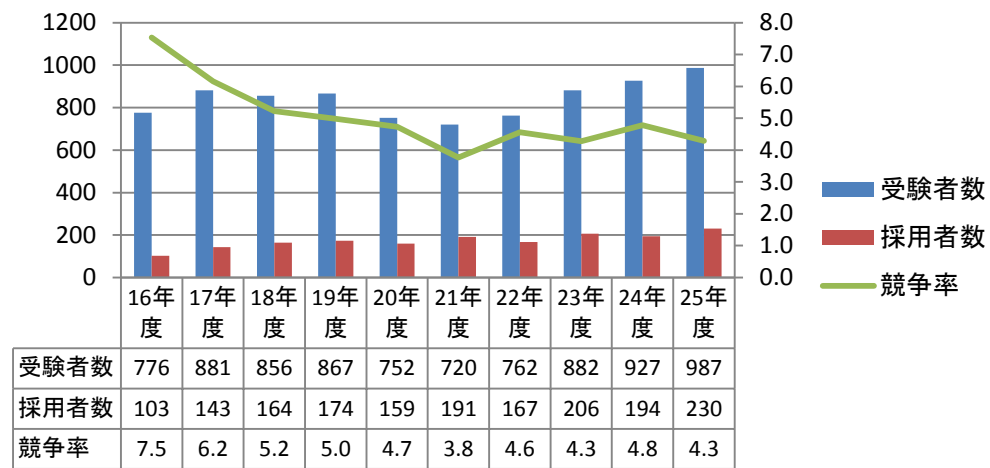


注) 文部科学省「公立学校教員採用選考試験の実施状況」を基に作成。

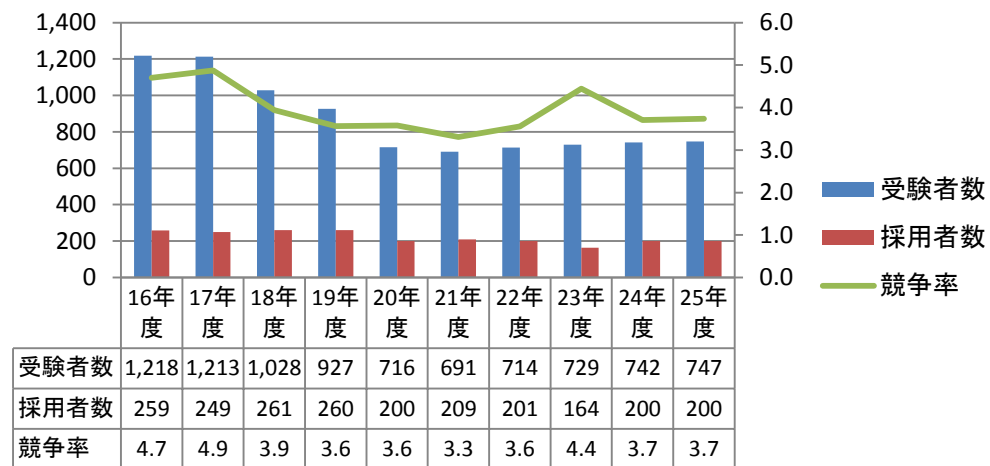
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243159.htm

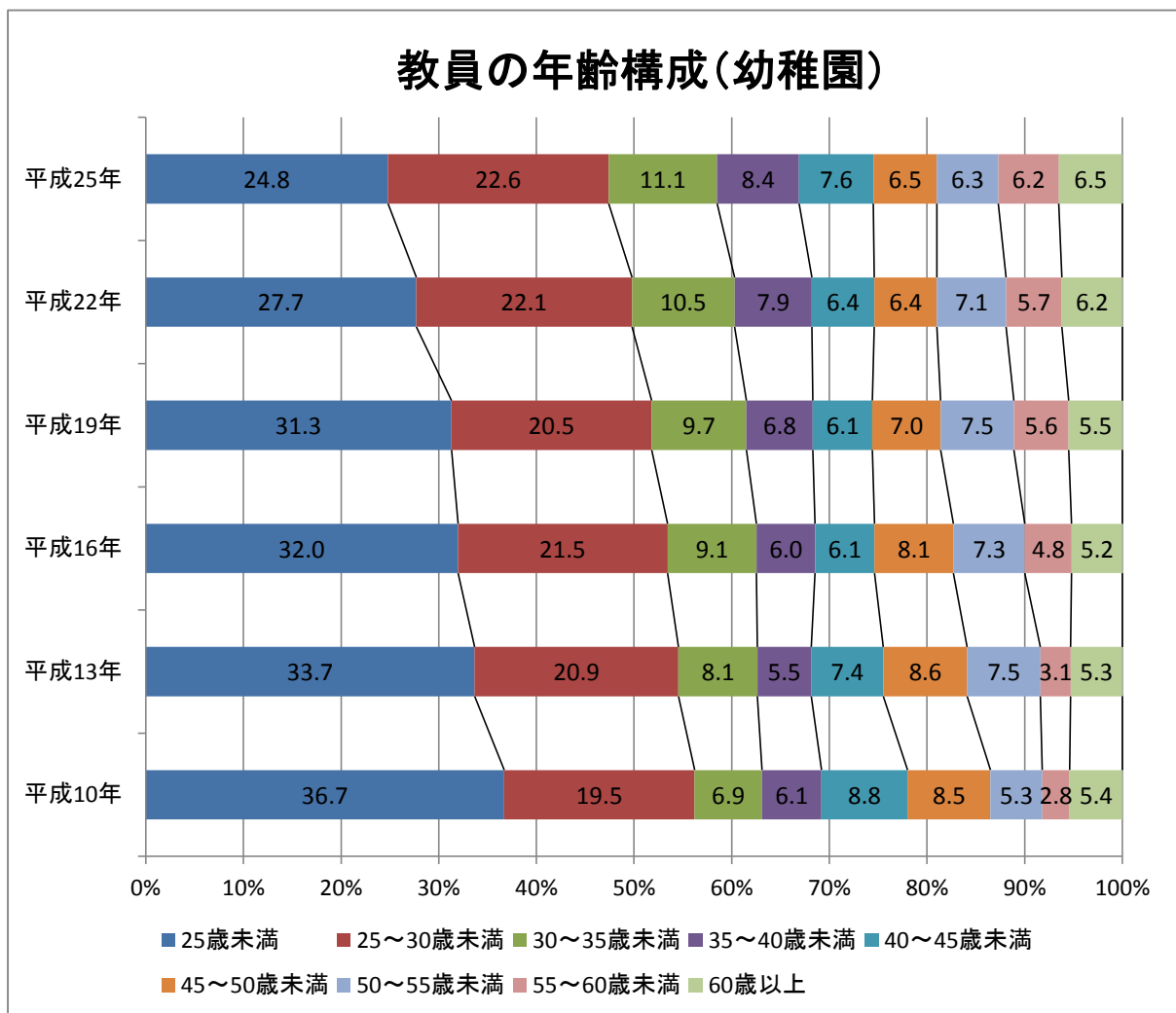


公立小学校教員採用数推移(三重県)



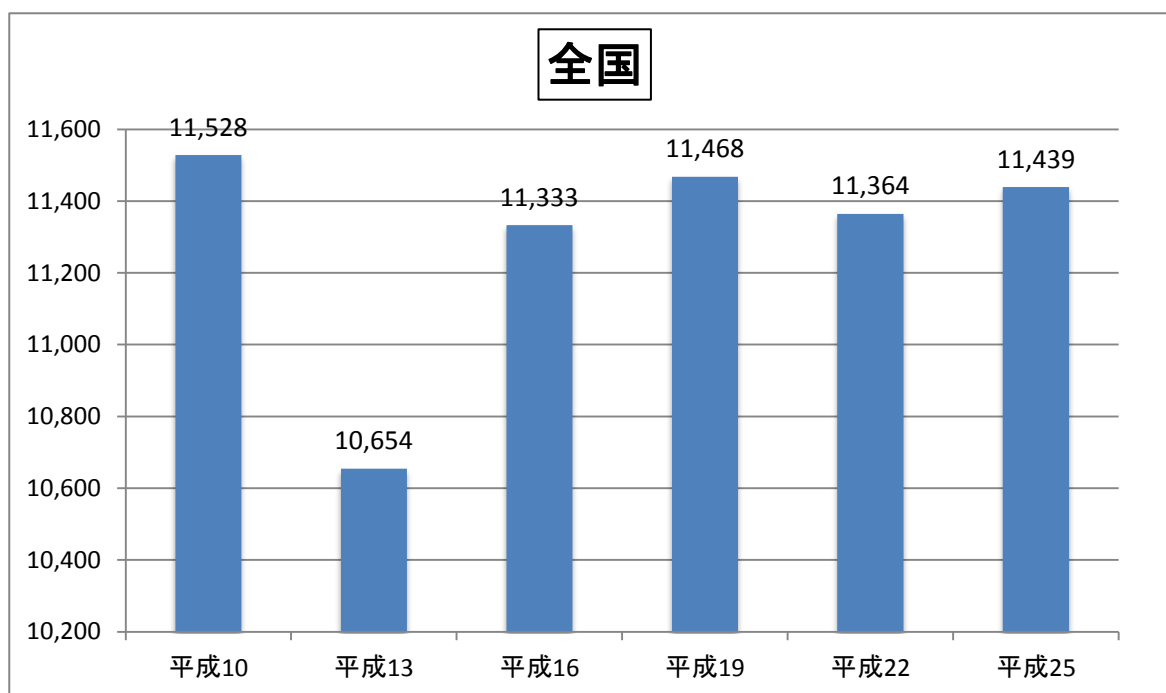
公立小学校教員採用数推移(静岡県)





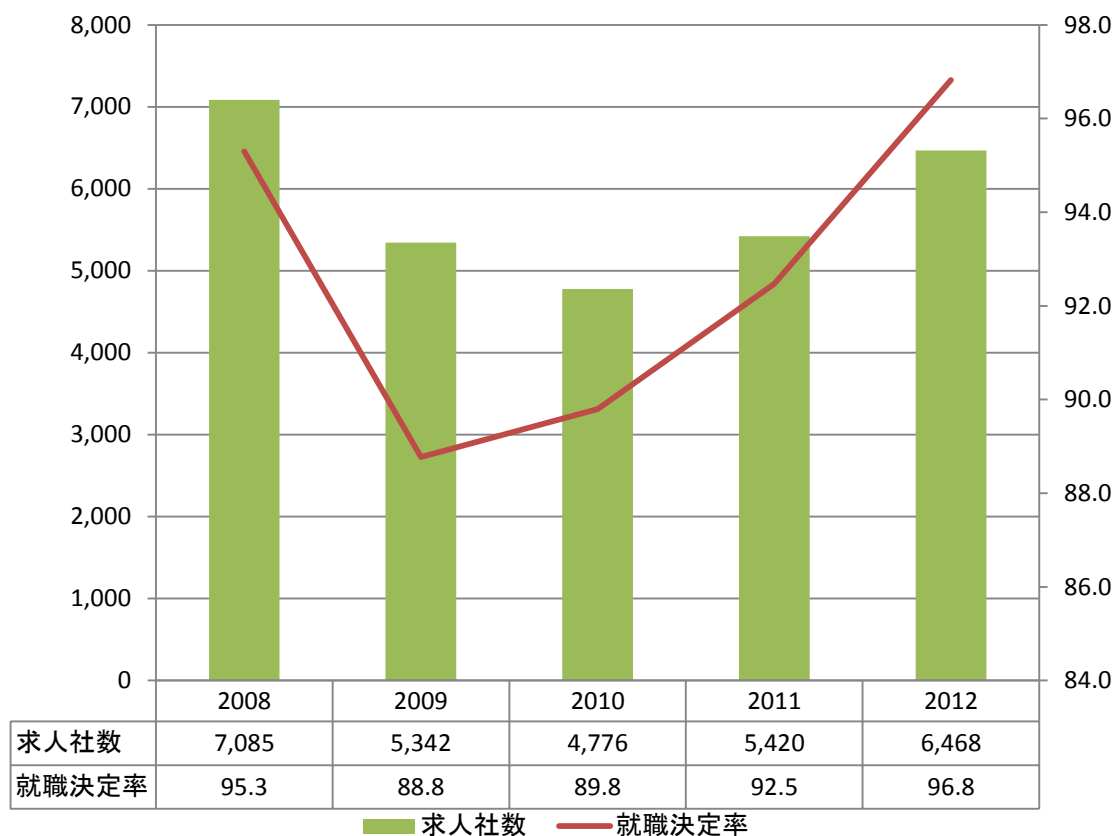
注)文部科学省「学校教員統計調査」を基に作成。

幼稚園教員採用数の推移



注) 文部科学省「学校教員統計調査」を基に作成。

名古屋学院大学就職状況



名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、
国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）
の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告書

平成26年4月

一般財団法人 日本開発構想研究所

**名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）の卒業生に対する
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告**

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 27 年 4 月の名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科開設に向けて、名古屋学院大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業・幼稚園等の採用担当者にアンケートを実施し、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

名古屋学院大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業・幼稚園等 4,756 社の採用担当者にアンケートを実施し、741 件の有効回答があった。

(3) 調査方法（郵送調査）

名古屋学院大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業・幼稚園等 4,756 社の採用担当者にアンケート用紙及び名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から郵送。

集計結果より、名古屋学院大学現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 26 年 2 月～平成 26 年 3 月

(5) 有効回収率等

配布数：4,756 社

有効回答数：741 件

有効回収率：約 15.5%

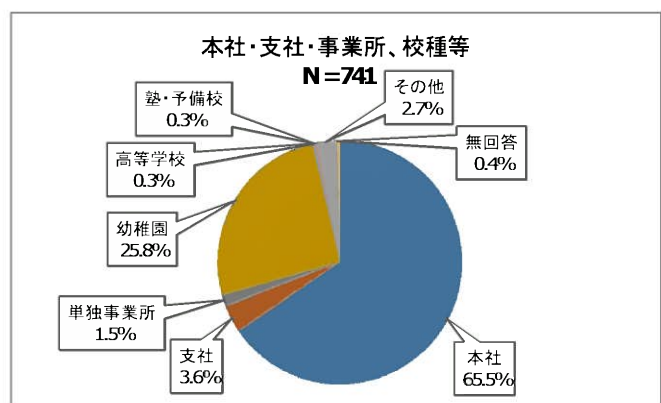
※名古屋学院大学にて設置を構想している現代社会学部、国際文化学部、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科は全て仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 本社・支社・事業所、校種等について

本社・支社・事業所、校種等について調査したところ、「本社」485 件（65.5%）が最も多く、次いで「幼稚園」191 件（25.8%）、「支社」27 件（3.6%）、「その他」20 件（2.7%）、「単独事業所」11 件（1.5%）、「無回答」3 件（0.4%）、「高等学校」2 件（0.3%）、「塾・予備校」2 件（0.3%）の順になっている。

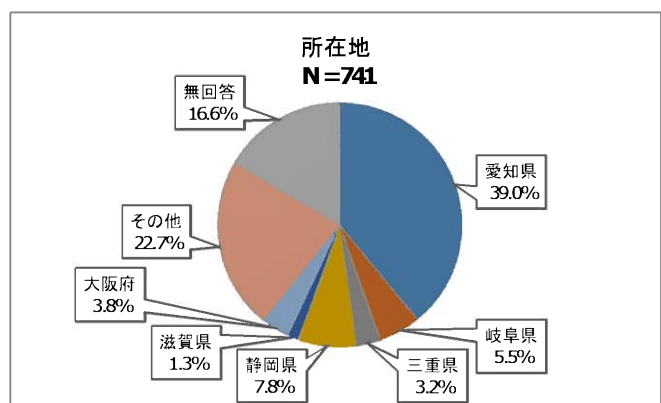
本社・支社・事業所、校種等			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	485	65.5
2	支社	27	3.6
3	単独事業所	11	1.5
4	幼稚園	191	25.8
5	小学校	0	0.0
6	中学校	0	0.0
7	高等学校	2	0.3
8	塾・予備校	2	0.3
9	その他	20	2.7
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	741	100



(2) 所在地について

所在地について調査したところ、「愛知県」289 件（39.0%）が最も多く、次いで「その他」168 件（22.7%）、「無回答」123 件（16.6%）、「静岡県」58 件（7.8%）、「岐阜県」41 件（5.5%）、「大阪府」28 件（3.8%）、「三重県」24 件（3.2%）、「滋賀県」10 件（1.3%）の順になっている。

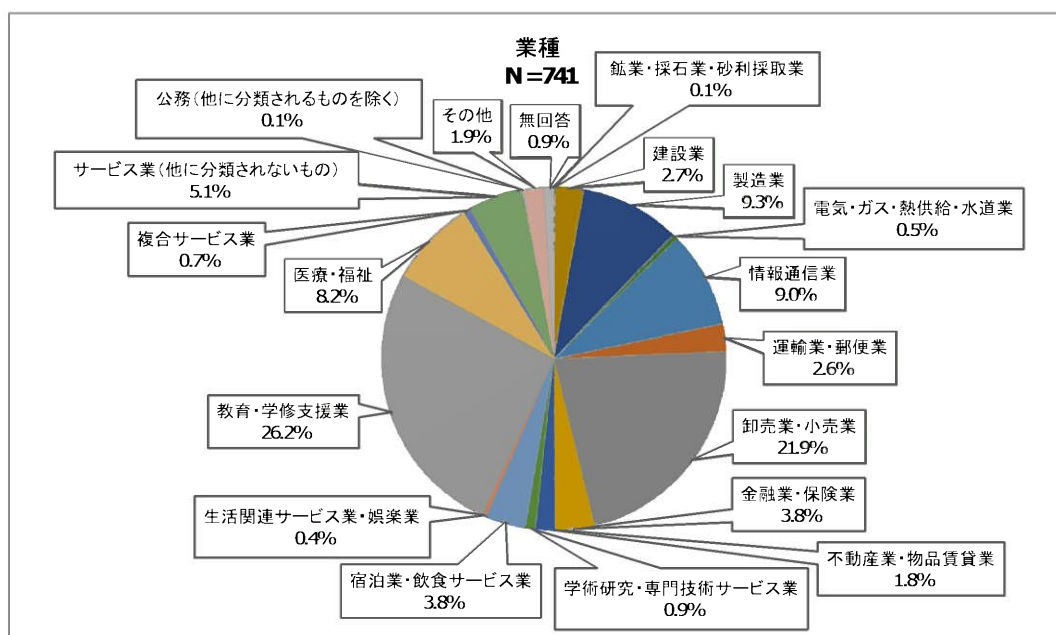
所在地			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	愛知県	289	39.0
2	岐阜県	41	5.5
3	三重県	24	3.2
4	静岡県	58	7.8
5	滋賀県	10	1.3
6	和歌山県	0	0.0
7	大阪府	28	3.8
8	その他	168	22.7
	無回答	123	16.6
	N (%ベース)	741	100



(3) 業種について

業種について調査したところ、5%以上の割合を占めたものを列举すると、「教育・学修支援業」194件（26.2%）が最も多く、次いで「卸売業・小売業」162件（21.9%）、「製造業」69件（9.3%）、「情報通信業」67件（9.0%）、「医療・福祉」61件（8.2%）、「サービス業（他に分類されないもの）」38件（5.1%）の順になっている。

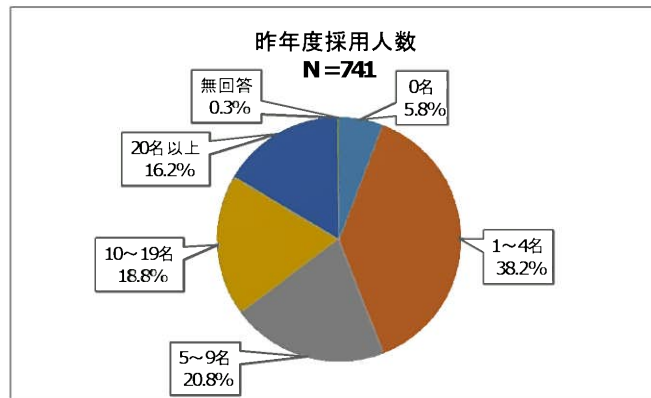
業種			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	0	0.0
2	漁業	0	0.0
3	鉱業・採石業・砂利採取業	1	0.1
4	建設業	20	2.7
5	製造業	69	9.3
6	電気・ガス・熱供給・水道業	4	0.5
7	情報通信業	67	9.0
8	運輸業・郵便業	19	2.6
9	卸売業・小売業	162	21.9
10	金融業・保険業	28	3.8
11	不動産業・物品賃貸業	13	1.8
12	学術研究・専門技術サービス業	7	0.9
13	宿泊業・飲食サービス業	28	3.8
14	生活関連サービス業・娯楽業	3	0.4
15	教育・学修支援業	194	26.2
16	医療・福祉	61	8.2
17	複合サービス業	5	0.7
18	サービス業（他に分類されないもの）	38	5.1
19	公務（他に分類されるものを除く）	1	0.1
20	その他	14	1.9
	無回答	7	0.9
	N（%ベース）	741	100



(4) 昨年度採用人数について

昨年度採用人数について調査したところ、「1～4名」283件（38.2%）が最も多く、次いで「5～9名」154件（20.8%）、「10～19名」139件（18.8%）、「20名以上」120件（16.2%）、「0名」43件（5.8%）、「無回答」2件（0.3%）の順になっている。

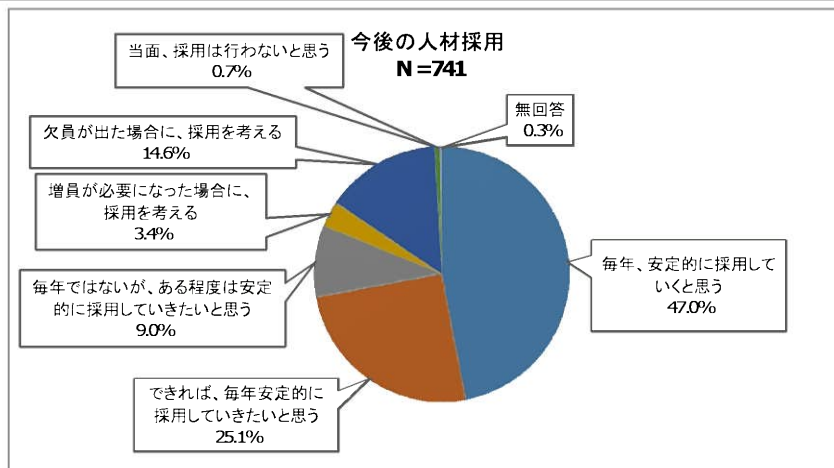
昨年度採用人数			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	43	5.8
2	1～4名	283	38.2
3	5～9名	154	20.8
4	10～19名	139	18.8
5	20名以上	120	16.2
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	741	100



(5) 今後の人材採用について

今後の人材採用について調査したところ、「毎年、安定的に採用していくと思う」348件（47.0%）が最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」186件（25.1%）、「欠員が出た場合に、採用を考える」108件（14.6%）、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」67件（9.0%）、「増員が必要になった場合に、採用を考える」25件（3.4%）、「当面、採用は行わないと思う」5件（0.7%）、「無回答」2件（0.3%）の順になっている。

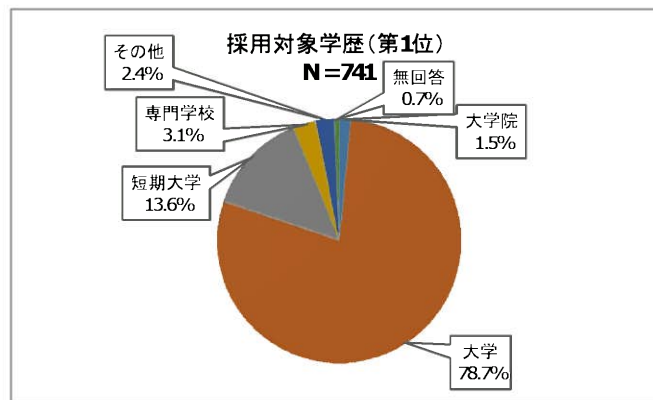
今後の人材採用			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	348	47.0
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	186	25.1
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	67	9.0
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	25	3.4
5	欠員が出た場合に、採用を考える	108	14.6
6	当面、採用は行わないと思う	5	0.7
	無回答	2	0.3
	N（%ベース）	741	100



(6) 採用対象学歴（第1位）について

採用対象学歴（第1位）について調査したところ、「大学」583件（78.7%）が最も多く、次いで「短期大学」101件（13.6%）、「専門学校」23件（3.1%）、「その他」18件（2.4%）、「大学院」11件（1.5%）、「無回答」5件（0.7%）の順になっている。

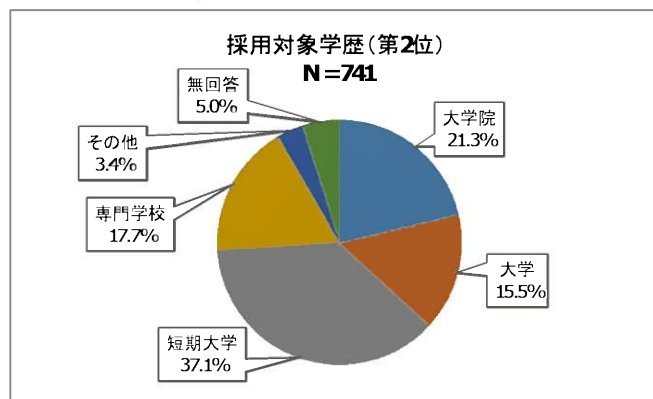
採用対象学歴(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.5
2	大学	583	78.7
3	短期大学	101	13.6
4	専門学校	23	3.1
5	その他	18	2.4
	無回答	5	0.7
	N (%ベース)	741	100



(7) 採用対象学歴（第2位）について

採用対象学歴（第2位）について調査したところ、「短期大学」275件（37.1%）が最も多く、次いで「大学院」158件（21.3%）、「専門学校」131件（17.7%）、「大学」115件（15.5%）、「無回答」37件（5.0%）、「その他」25件（3.4%）の順になっている。

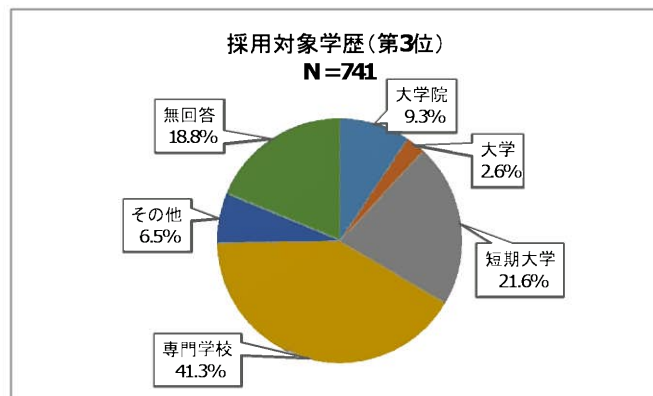
採用対象学歴(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	158	21.3
2	大学	115	15.5
3	短期大学	275	37.1
4	専門学校	131	17.7
5	その他	25	3.4
	無回答	37	5.0
	N (%ベース)	741	100



(8) 採用対象学歴（第3位）について

採用対象学歴（第3位）について調査したところ、「専門学校」306件（41.3%）が最も多く、次いで「短期大学」160件（21.6%）、「無回答」139件（18.8%）、「大学院」69件（9.3%）、「その他」48件（6.5%）、「大学」19件（2.6%）の順になっている。

採用対象学歴(第3位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	69	9.3
2	大学	19	2.6
3	短期大学	160	21.6
4	専門学校	306	41.3
5	その他	48	6.5
	無回答	139	18.8
	N (%ベース)	741	100

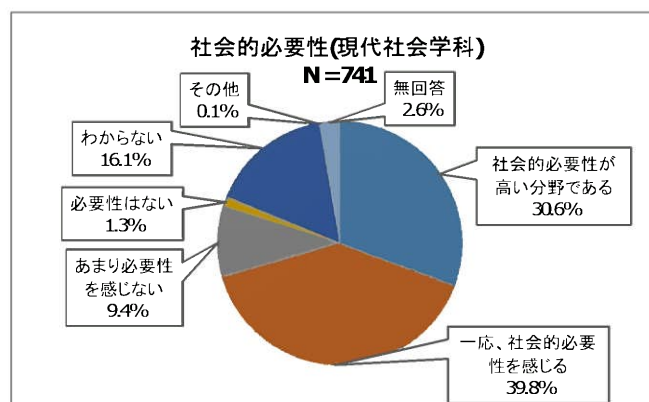


(9) 現代社会学科の社会的必要性について

現代社会学科の社会的必要性について調査したところ、「一応、社会的必要性を感じる」295 件（39.8%）が最も多く、次いで「社会的必要性が高い分野である」227 件（30.6%）、「わからない」119 件（16.1%）、「あまり必要性を感じない」70 件（9.4%）、「無回答」19 件（2.6%）、「必要性はない」10 件（1.3%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、現代社会学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、522 件（70.4%）となっている。

社会的必要性(現代社会学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	227	30.6
2	一応、社会的必要性を感じる	295	39.8
3	あまり必要性を感じない	70	9.4
4	必要性はない	10	1.3
5	わからない	119	16.1
6	その他	1	0.1
	無回答	19	2.6
	N (%ベース)	741	100



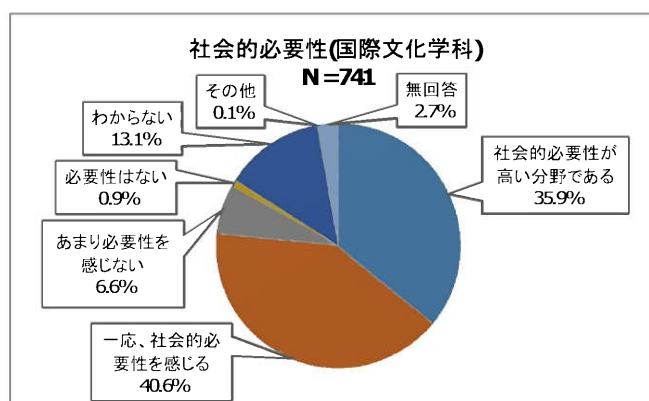
(10) 国際文化学科の社会的必要性について

国際文化学科の社会的必要性について調査したところ、「一応、社会的必要性を感じる」301 件（40.6%）が最も多く、次いで「社会的必要性が高い分野である」266 件（35.9%）、「わからない」97 件（13.1%）、「あまり必要性を感じない」49 件（6.6%）、「無回答」20 件（2.7%）、「必要性はない」7 件（0.9%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、国際文化学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、567 件（76.5%）となっている。

社会的必要性(国際文化学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	266	35.9
2	一応、社会的必要性を感じる	301	40.6
3	あまり必要性を感じない	49	6.6
4	必要性はない	7	0.9
5	わからない	97	13.1
6	その他	1	0.1
	無回答	20	2.7
	N (%ベース)	741	100



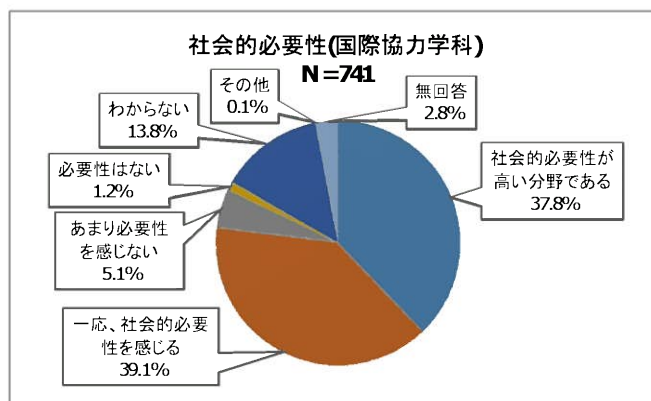
(11) 国際協力量科の社会的必要性について

国際協力量科の社会的必要性について調査したところ、「一応、社会的必要性を感じる」290 件（39.1%）が最も多く、次いで「社会的必要性が高い分野である」280 件（37.8%）、「わからない」102 件（13.8%）、「あまり必要性を感じない」38 件（5.1%）、「無回答」21 件（2.8%）、「必要性はない」9 件（1.2%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、国際協力量科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、570 件（76.9%）となっている。

社会的必要性(国際協力量科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	280	37.8
2	一応、社会的必要性を感じる	290	39.1
3	あまり必要性を感じない	38	5.1
4	必要性はない	9	1.2
5	わからない	102	13.8
6	その他	1	0.1
	無回答	21	2.8
	N（%ベース）	741	100

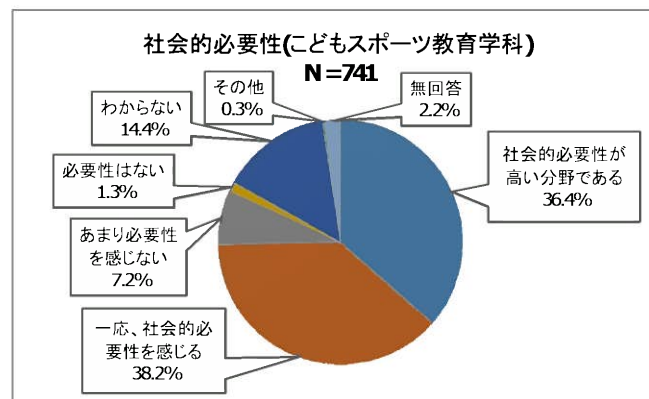


(12) こどもスポーツ教育学科の社会的必要性について

こどもスポーツ教育学科の社会的必要性について調査したところ、「一応、社会的必要性を感じる」283 件（38.2%）が最も多く、次いで「社会的必要性が高い分野である」270 件（36.4%）、「わからない」107 件（14.4%）、「あまり必要性を感じない」53 件（7.2%）、「無回答」16 件（2.2%）、「必要性はない」10 件（1.3%）、「その他」2 件（0.3%）の順になっている。

なお、こどもスポーツ教育学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、553 件（74.6%）となっている。

社会的必要性(こどもスポーツ教育学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	270	36.4
2	一応、社会的必要性を感じる	283	38.2
3	あまり必要性を感じない	53	7.2
4	必要性はない	10	1.3
5	わからない	107	14.4
6	その他	2	0.3
	無回答	16	2.2
	N (%ベース)	741	100

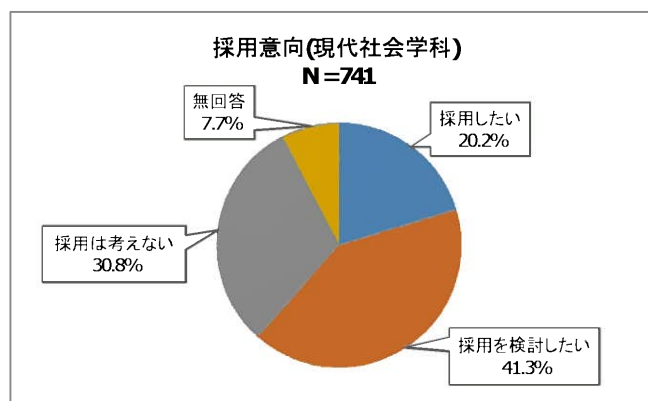


(13) 現代社会学科の採用意向について

現代社会学科の採用意向について調査したところ、「採用を検討したい」306件（41.3%）が最も多く、次いで「採用は考えない」228件（30.8%）、「採用したい」150件（20.2%）、「無回答」57件（7.7%）の順になっている。

なお、現代社会学科について、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、456件（61.5%）となっている。

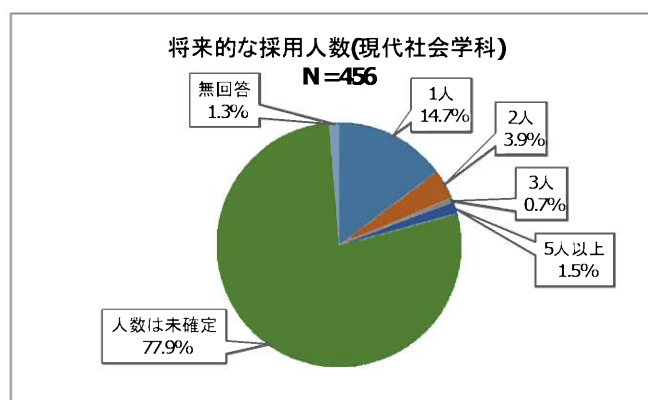
採用意向(現代社会学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	150	20.2
2	採用を検討したい	306	41.3
3	採用は考えない	228	30.8
	無回答	57	7.7
	N (%ベース)	741	100



(14) 現代社会学科の将来的な採用人数について

(13) で肯定的な採用意向を示した回答者 456 名に対して、現代社会学科の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」355件（77.9%）が最も多く、次いで「1人」67件（14.7%）、「2人」18件（3.9%）、「5人以上」7件（1.5%）、「無回答」6件（1.3%）、「3人」3件（0.7%）の順になっている。

将来的な採用人数(現代社会学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	67	14.7
2	2人	18	3.9
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	7	1.5
6	人数は未確定	355	77.9
	無回答	6	1.3
	N (%ベース)	456	100

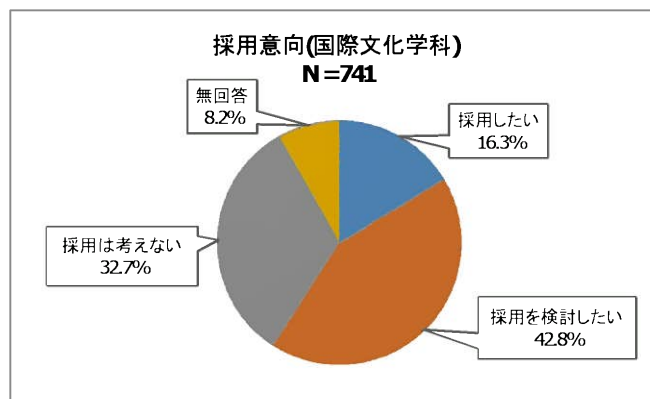


(15) 国際文化学科の採用意向について

国際文化学科の採用意向について調査したところ、「採用を検討したい」317件（42.8%）が最も多く、次いで「採用は考えない」242件（32.7%）、「採用したい」121件（16.3%）、「無回答」61件（8.2%）の順になっている。

なお、国際文化学科について、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、438件（59.1%）となっている。

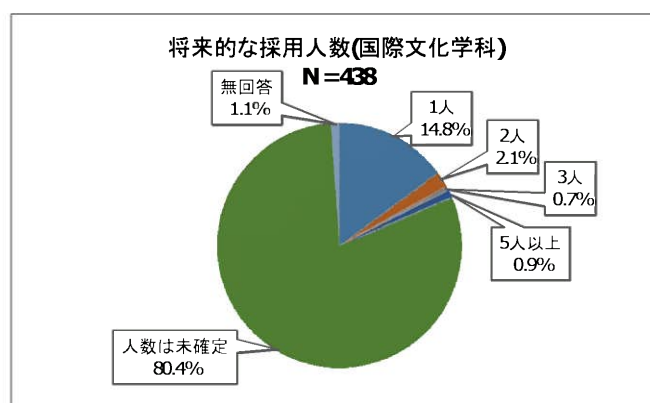
採用意向(国際文化学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	121	16.3
2	採用を検討したい	317	42.8
3	採用は考えない	242	32.7
	無回答	61	8.2
	N (%ベース)	741	100



(16) 国際文化学科の将来的な採用人数について

(15) で肯定的な採用意向を示した回答者 438 名に対して、国際文化学科の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」352件（80.4%）が最も多く、次いで「1人」65件（14.8%）、「2人」9件（2.1%）、「無回答」5件（1.1%）、「5人以上」4件（0.9%）、「3人」3件（0.7%）の順になっている。

将来的な採用人数(国際文化学科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	65	14.8
2	2人	9	2.1
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	4	0.9
6	人数は未確定	352	80.4
	無回答	5	1.1
	N (%ベース)	438	100

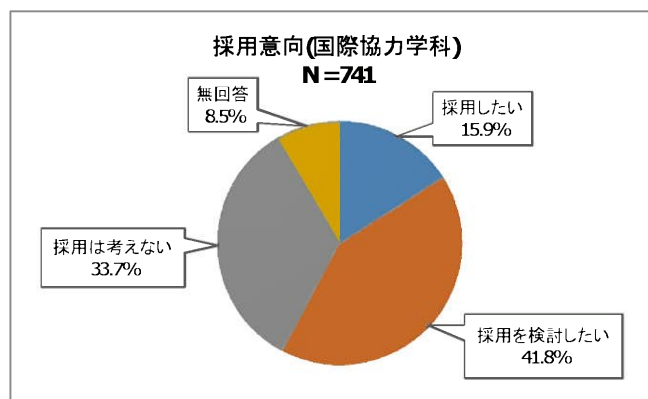


(17) 国際協力量科の採用意向について

国際協力量科の採用意向について調査したところ、「採用を検討したい」310件（41.8%）が最も多く、次いで「採用は考えない」250件（33.7%）、「採用したい」118件（15.9%）、「無回答」63件（8.5%）の順になっている。

なお、国際協力量科について、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、428件（57.7%）となっている。

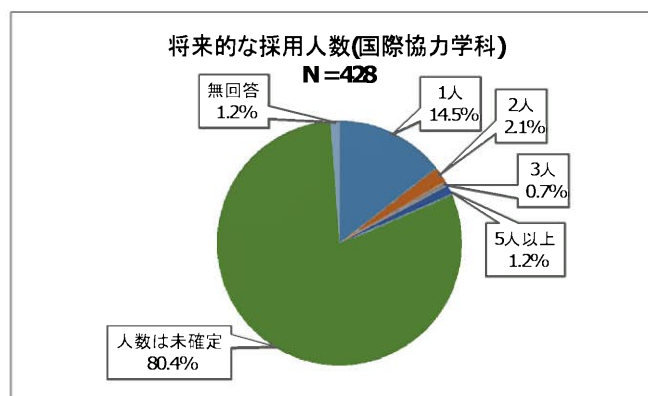
採用意向(国際協力量科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	118	15.9
2	採用を検討したい	310	41.8
3	採用は考えない	250	33.7
	無回答	63	8.5
	N (%ベース)	741	100



(18) 国際協力量科の将来的な採用人数について

(17) で肯定的な採用意向を示した回答者 428 名に対して、国際協力量科の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」344件（80.4%）が最も多く、次いで「1人」62件（14.5%）、「2人」9件（2.1%）、「5人以上」5件（1.2%）、「無回答」5件（1.2%）、「3人」3件（0.7%）の順になっている。

将来的な採用人数(国際協力量科)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	62	14.5
2	2人	9	2.1
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	5	1.2
6	人数は未確定	344	80.4
	無回答	5	1.2
	N (%ベース)	428	100

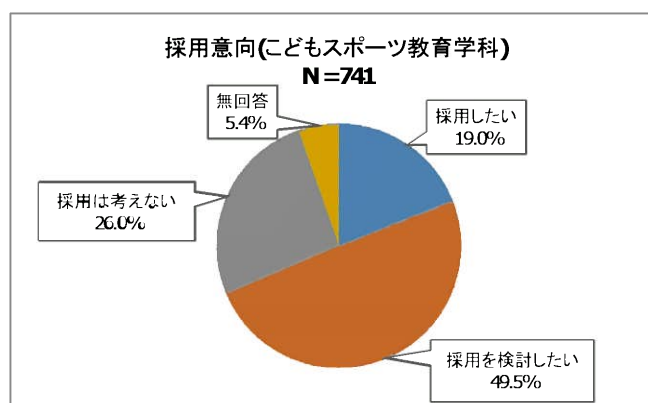


(19) こどもスポーツ教育学科の採用意向について

こどもスポーツ教育学科の採用意向について調査したところ、「採用を検討したい」367件（49.5%）が最も多く、次いで「採用は考えない」193件（26.0%）、「採用したい」141件（19.0%）、「無回答」40件（5.4%）の順になっている。

なお、こどもスポーツ教育学科について、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、508件（68.5%）となっている。

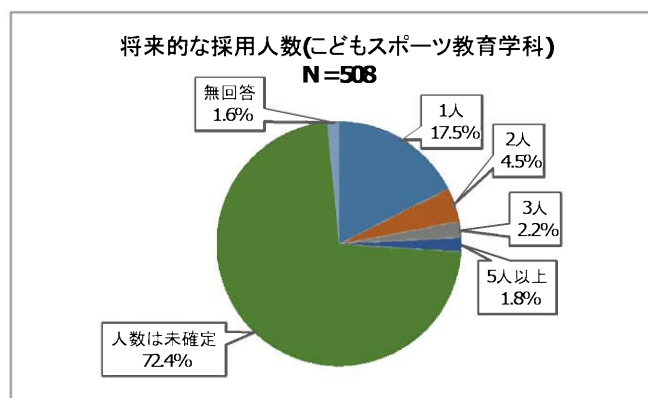
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	141	19.0
2	採用を検討したい	367	49.5
3	採用は考えない	193	26.0
	無回答	40	5.4
	N (%ベース)	741	100



(20) こどもスポーツ教育学科の将来的な採用人数について

(19) で肯定的な採用意向を示した回答者 508 名に対して、こどもスポーツ教育学科の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」368件（72.4%）が最も多く、次いで「1人」89件（17.5%）、「2人」23件（4.5%）、「3人」11件（2.2%）、「5人以上」9件（1.8%）、「無回答」8件（1.6%）の順になっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	89	17.5
2	2人	23	4.5
3	3人	11	2.2
4	4人	0	0.0
5	5人以上	9	1.8
6	人数は未確定	368	72.4
	無回答	8	1.6
	N (%ベース)	508	100



3. 調査結果のまとめ

名古屋学院大学現代社会学部現代社会学科、国際文化学部国際文化学科、国際文化学部国際協力量科、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科卒業生への将来的な採用意向人数の集計にあたっては、(13)～(20)の将来的な採用意向人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定(最低1人とカウント)」)に回答数を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは将来的な採用意向は示すけれども、アンケート調査時点では将来的な採用意向人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用意向人数をミニマム1人としてカウントした。

現代社会学科

下記の表より、現代社会学科の採用意向は「採用したい」のみで合計した場合、191人分となる。入学定員は150人であるため、約1.2倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向は502人となり、これは、入学定員に対して、約3.3倍となる。

現代社会学科

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」のみ	合計
1人(A)	31 (a)	(A)×(a) 31
2人(B)	15 (b)	(B)×(b) 30
3人(C)	2 (c)	(C)×(c) 6
5人以上(D)	6 (d)	(D)×(d) 30
人数は未確定(E)	94 (e)	(E)×(e) 94

191 人

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計	合計
1人(F)	67 (f)	(F)×(f) 67
2人(G)	18 (g)	(G)×(g) 36
3人(H)	3 (h)	(H)×(h) 9
5人以上(I)	7 (i)	(I)×(i) 35
人数は未確定(J)	355 (j)	(J)×(j) 355

502 人

国際文化学科

下記の表より、国際文化学科の採用意向は「採用したい」のみで合計した場合、139人分となる。入学定員は100人であるため、1.39倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向は464人となり、これは、入学定員に対して、4.64倍となる。

国際文化学科

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」のみ	合計
1人(A)	26 (a)	(A)×(a) 26
2人(B)	4 (b)	(B)×(b) 8
3人(C)	2 (c)	(C)×(c) 6
5人以上(D)	3 (d)	(D)×(d) 15
人数は未確定(E)	84 (e)	(E)×(e) 84

139 人

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」「採用を検討したい」の合計	合計
1人(F)	65 (f)	(F)×(f) 65
2人(G)	9 (g)	(G)×(g) 18
3人(H)	3 (h)	(H)×(h) 9
5人以上(I)	4 (i)	(I)×(i) 20
人数は未確定(J)	352 (j)	(J)×(j) 352

464 人

国際協力量科

下記の表より、国際協力量科の採用意向は 141 人分となる。
 入学定員は 50 人であるため、2.82 倍の採用意向を確保できている。
 また、「採用を検討したい」を含めた場合、採用意向は 458 人となり、これは、入学定員
 に対して、9.16 倍となる。

国際協力量科

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」のみ	合計
1人(A)	23 (a)	(A) × (a) 23
2人(B)	5 (b)	(B) × (b) 10
3人(C)	2 (c)	(C) × (c) 6
5人以上(D)	4 (d)	(D) × (d) 20
人数は未確定(E)	82 (e)	(E) × (e) 82

141 人

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計	合計
1人(F)	62 (f)	(F) × (f) 62
2人(G)	9 (g)	(G) × (g) 18
3人(H)	3 (h)	(H) × (h) 9
5人以上(I)	5 (i)	(I) × (i) 25
人数は未確定(J)	344 (j)	(J) × (j) 344

458 人

こどもスポーツ教育学科

下記の表より、こどもスポーツ教育学科の採用意向は 206 人分となる。
 入学定員は 50 人であるため、4.12 倍の採用意向を確保できている。
 また、「採用を検討したい」を含めた場合、採用意向は 581 人となり、これは、入学定員
 に対して、11.62 倍となる。

こどもスポーツ教育学科

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」のみ	合計
1人(A)	28 (a)	(A) × (a) 28
2人(B)	15 (b)	(B) × (b) 30
3人(C)	10 (c)	(C) × (c) 30
5人以上(D)	8 (d)	(D) × (d) 40
人数は未確定(E)	78 (e)	(E) × (e) 78

206 人

回答数(件)		
人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計	合計
1人(F)	89 (f)	(F) × (f) 89
2人(G)	23 (g)	(G) × (g) 46
3人(H)	11 (h)	(H) × (h) 33
5人以上(I)	9 (i)	(I) × (i) 45
人数は未確定(J)	368 (j)	(J) × (j) 368

581 人

この調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、今回の調査の対象
 である名古屋学院大学の下記、学部・学科について、卒業生の進路は十分に確保できるも
 のと考える。

現代社会学部現代社会学科

国際文化学部国際文化学科

国際文化学部国際協力量科

スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科

アンケート調査票

「名古屋学院大学 現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、
スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称）設置に係るアンケート調査」

- このアンケート調査は、2015 年 4 月に開設予定の新学部、新学科（現代社会学部（仮称）、国際文化学部（仮称）、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科（仮称））の設置計画の基礎資料にするため、貴社（貴校）の採用状況・意向についてお聞きするものです。
- このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- 回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

★調査回答締切のお願い

2014 年 3 月 7 日（金）までに、ご投函頂きますようお願いいたします。

※ 同封の返信用封筒にてご投函ください。

【 貴社・貴校についてお聞きます 】

【回答欄】

Q1. 本社・支社・事業所、校種等についてお聞きます。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

〔企業〕 1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所

〔教育〕 4. 幼稚園 5. 小学校 6. 中学校 7. 高等学校 8. 塾・予備校
9. その他（ ）

Q2. 所在地についてお聞きます。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

※Q1の〔企業〕で「1. 本社」ではなく、「2. 支社」を選択された場合は、支社の所在地をお答えください。

1. 愛知県 2. 岐阜県 3. 三重県
4. 静岡県 5. 滋賀県 6. 和歌山県
7. 大阪府 8. その他（ ）

Q3. 業種についてお聞きます。次の中から最も当てはまる番号を 1 つお選びください。

1. 農業・林業 2. 漁業
3. 鉱業・採石業・砂利採取業 4. 建設業
5. 製造業 6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業 8. 運輸業・郵便業
9. 卸売業・小売業 10. 金融業・保険業
11. 不動産業・物品賃貸業 12. 学術研究・専門技術サービス業
13. 宿泊業・飲食サービス業 14. 生活関連サービス業・娯楽業
15. 教育・学修支援業 16. 医療・福祉
17. 複合サービス業 18. サービス業（他に分類されないもの）
19. 公務（他に分類されるものを除く） 20. その他（具体的に ）

Q4. 昨年度に採用された人数はどのくらいですか。該当する番号を 1 つお選びください。

1. 0 名 2. 1～4 名 3. 5～9 名 4. 10～19 名 5. 20 名以上

Q5. 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を 1 つお選びください。

1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う

Q6. 今後、人材の採用にあたり、どのような出身学歴（最終学歴）の方の採用をお考えですか。

「採用対象となる」と思われる番号を第3位までお選びください。

1. 大学院 2. 大学 3. 短期大学 4. 専門学校 5. その他（ ）

a：第1位 →

b：第2位 →

c：第3位 →

【 ここからは、同封した「新学部の概要（リーフレット）」をご覧くださいながらお答えください 】

Q7. 本学が計画している新学部・新学科の社会的必要性についてどのようにお考えになりましたか。

学部・学科ごとに次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 社会的必要性が高い分野である 4. 必要性はない
2. 一応、社会的必要性を感じる 5. わからない
3. あまり必要性を感じない 6. その他（具体的に ）

a. 現代社会学部現代社会学科 （仮称） →

b. 国際文化学部国際文化学科 （仮称） →

c. 国際文化学部国際協力量科 （仮称） →

d. スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 （仮称） →

Q8. 本学が計画している新学部・新学科の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい 2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1つでも1、2を選ばれた方は問9へお進みください。
全て3を選ばれた方は問10へお進みください。

a. 現代社会学部現代社会学科 （仮称） →

b. 国際文化学部国際文化学科 （仮称） →

c. 国際文化学部国際協力量科 （仮称） →

d. スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 （仮称） →

Q9. 将来的に、本学が計画している新学部・新学科の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。Q8にて「採用したい」「採用を検討したい」を選択した学科について、次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 6. 人数は未確定

a. 現代社会学部現代社会学科 （仮称） →

b. 国際文化学部国際文化学科 （仮称） →

c. 国際文化学部国際協力量科 （仮称） →

d. スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科 （仮称） →

Q10. 新学部・新学科の設置計画にあたって、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等があれば、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

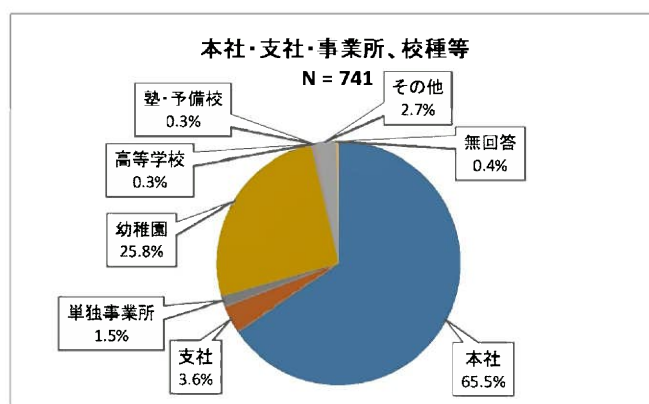
名古屋学院大学 企画地域連携室（担当：出口・杉山）

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝3-1-17 電話：052-678-4085 FAX：052-682-6813

集計表 単純集計

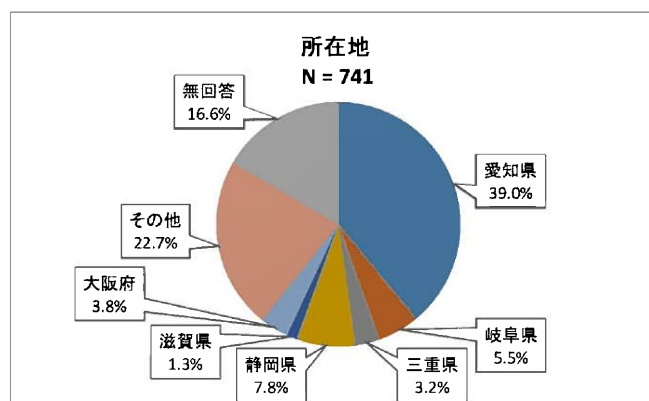
本社・支社・事業所、校種等

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	485	65.5
2	支社	27	3.6
3	単独事業所	11	1.5
4	幼稚園	191	25.8
5	小学校	0	0.0
6	中学校	0	0.0
7	高等学校	2	0.3
8	塾・予備校	2	0.3
9	その他	20	2.7
	無回答	3	0.4
	N (%ベース)	741	100

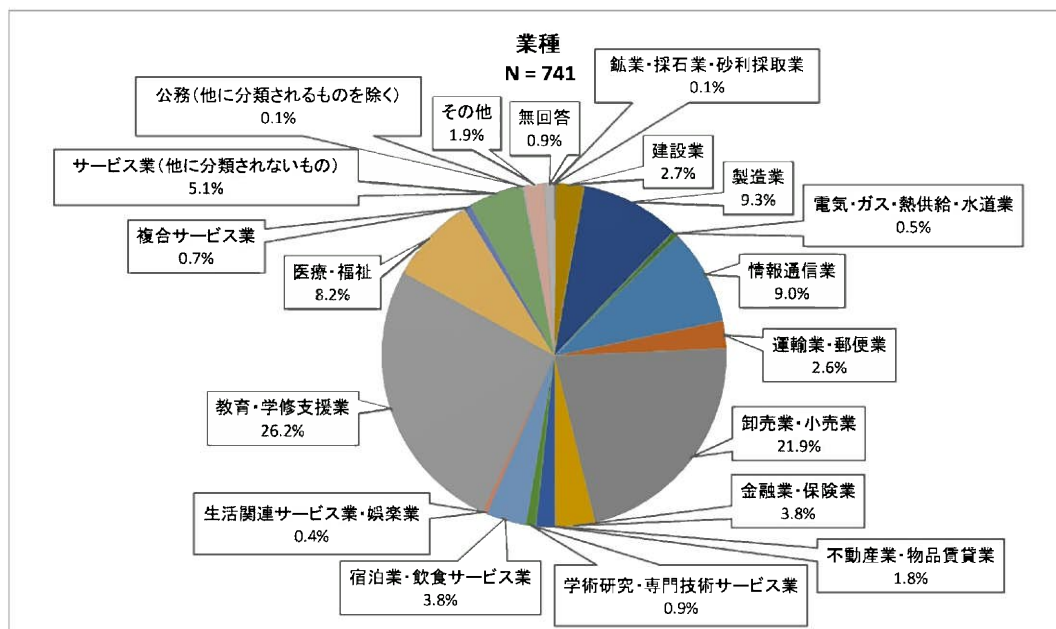


所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	愛知県	289	39.0
2	岐阜県	41	5.5
3	三重県	24	3.2
4	静岡県	58	7.8
5	滋賀県	10	1.3
6	和歌山県	0	0.0
7	大阪府	28	3.8
8	その他	168	22.7
	無回答	123	16.6
	N (%ベース)	741	100

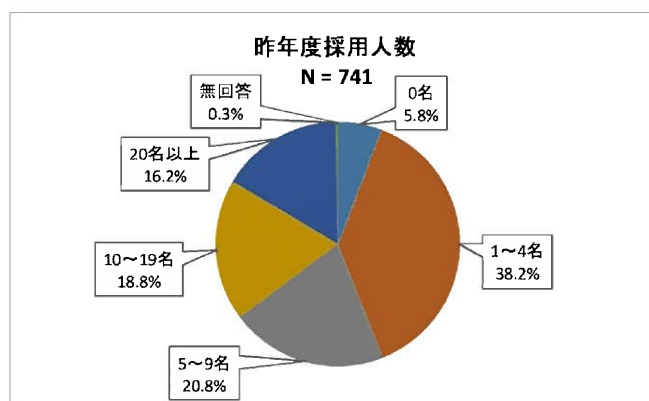


業種			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業	0	0.0
2	漁業	0	0.0
3	鉱業・採石業・砂利採取業	1	0.1
4	建設業	20	2.7
5	製造業	69	9.3
6	電気・ガス・熱供給・水道業	4	0.5
7	情報通信業	67	9.0
8	運輸業・郵便業	19	2.6
9	卸売業・小売業	162	21.9
10	金融業・保険業	28	3.8
11	不動産業・物品賃貸業	13	1.8
12	学術研究・専門技術サービス業	7	0.9
13	宿泊業・飲食サービス業	28	3.8
14	生活関連サービス業・娯楽業	3	0.4
15	教育・学修支援業	194	26.2
16	医療・福祉	61	8.2
17	複合サービス業	5	0.7
18	サービス業(他に分類されないもの)	38	5.1
19	公務(他に分類されるものを除く)	1	0.1
20	その他	14	1.9
	無回答	7	0.9
	N(%ベース)	741	100



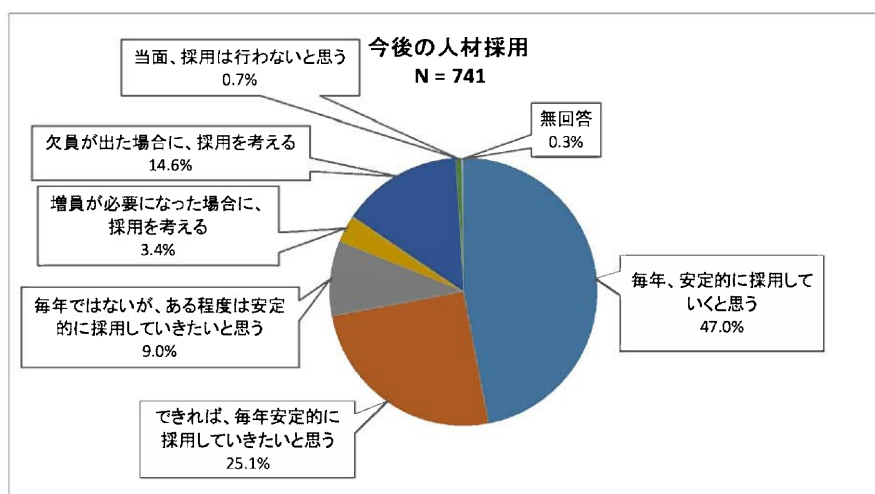
昨年度採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	43	5.8
2	1～4名	283	38.2
3	5～9名	154	20.8
4	10～19名	139	18.8
5	20名以上	120	16.2
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	741	100



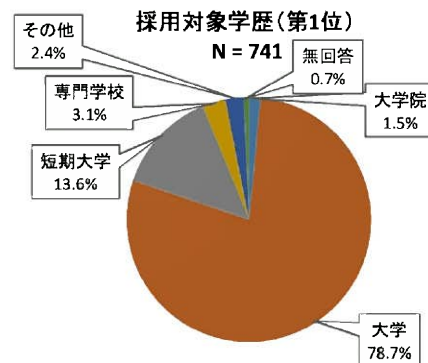
今後の人材採用

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	348	47.0
2	できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う	186	25.1
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う	67	9.0
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	25	3.4
5	欠員が出た場合に、採用を考える	108	14.6
6	当面、採用は行わないと思う	5	0.7
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	741	100



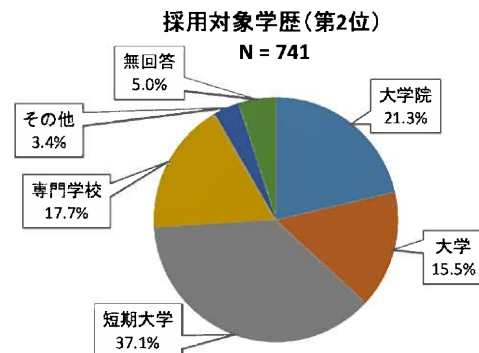
採用対象学歴(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	11	1.5
2	大学	583	78.7
3	短期大学	101	13.6
4	専門学校	23	3.1
5	その他	18	2.4
	無回答	5	0.7
	N (%ベース)	741	100



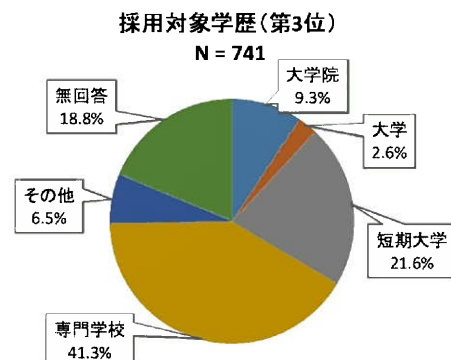
採用対象学歴(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	158	21.3
2	大学	115	15.5
3	短期大学	275	37.1
4	専門学校	131	17.7
5	その他	25	3.4
	無回答	37	5.0
	N (%ベース)	741	100



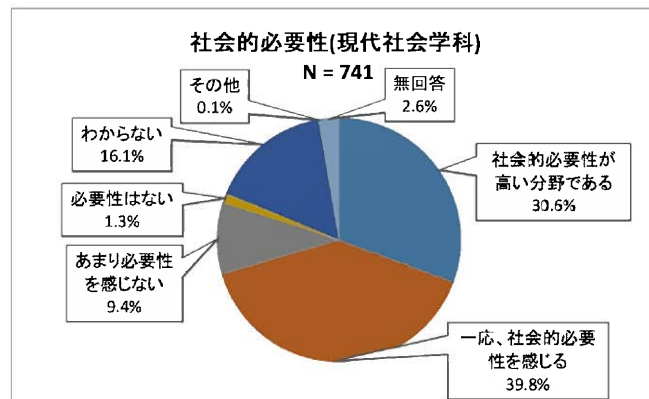
採用対象学歴(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	69	9.3
2	大学	19	2.6
3	短期大学	160	21.6
4	専門学校	306	41.3
5	その他	48	6.5
	無回答	139	18.8
	N (%ベース)	741	100



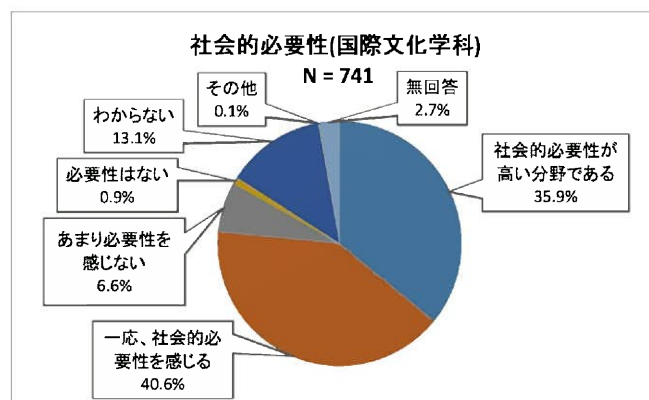
社会的必要性(現代社会学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	227	30.6
2	一応、社会的必要性を感じる	295	39.8
3	あまり必要性を感じない	70	9.4
4	必要性はない	10	1.3
5	わからない	119	16.1
6	その他	1	0.1
	無回答	19	2.6
	N (%ベース)	741	100



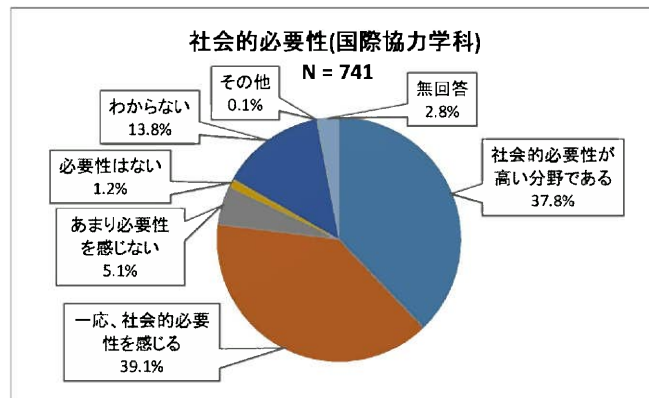
社会的必要性(国際文化学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	266	35.9
2	一応、社会的必要性を感じる	301	40.6
3	あまり必要性を感じない	49	6.6
4	必要性はない	7	0.9
5	わからない	97	13.1
6	その他	1	0.1
	無回答	20	2.7
	N (%ベース)	741	100



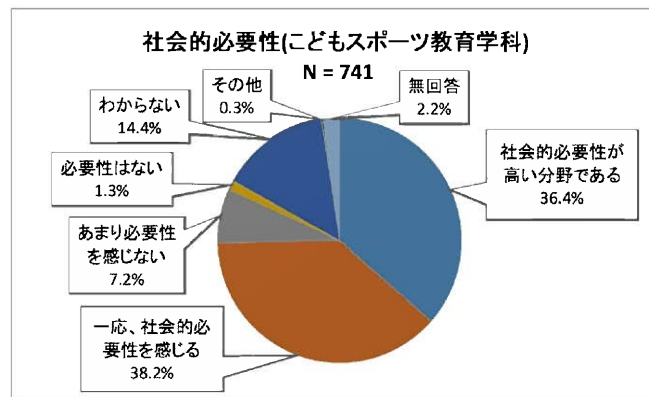
社会的必要性(国際協力量科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	280	37.8
2	一応、社会的必要性を感じる	290	39.1
3	あまり必要性を感じない	38	5.1
4	必要性はない	9	1.2
5	わからない	102	13.8
6	その他	1	0.1
	無回答	21	2.8
	N (%ベース)	741	100



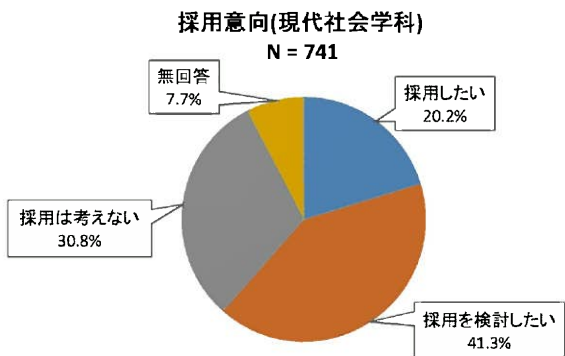
社会的必要性(こどもスポーツ教育学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	270	36.4
2	一応、社会的必要性を感じる	283	38.2
3	あまり必要性を感じない	53	7.2
4	必要性はない	10	1.3
5	わからない	107	14.4
6	その他	2	0.3
	無回答	16	2.2
	N (%ベース)	741	100



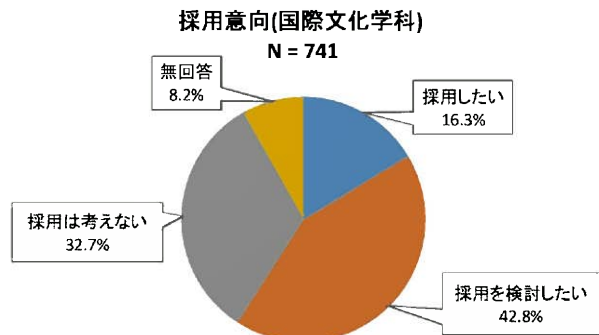
採用意向(現代社会学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	150	20.2
2	採用を検討したい	306	41.3
3	採用は考えない	228	30.8
	無回答	57	7.7
	N (%ベース)	741	100



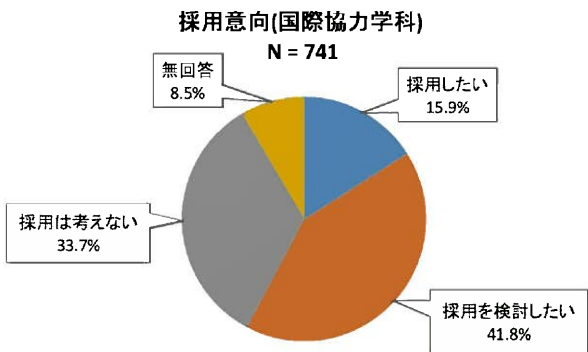
採用意向(国際文化学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	121	16.3
2	採用を検討したい	317	42.8
3	採用は考えない	242	32.7
	無回答	61	8.2
	N (%ベース)	741	100



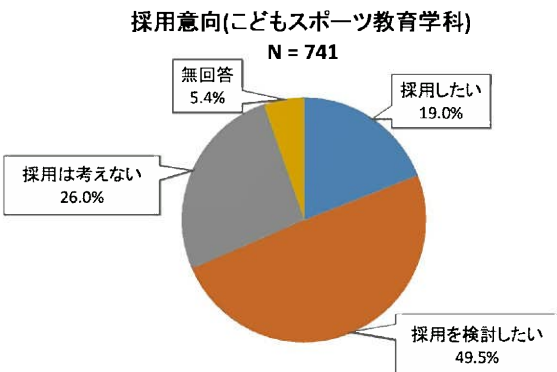
採用意向(国際協力量科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	118	15.9
2	採用を検討したい	310	41.8
3	採用は考えない	250	33.7
	無回答	63	8.5
	N (%ベース)	741	100



採用意向(こどもスポーツ教育学科)

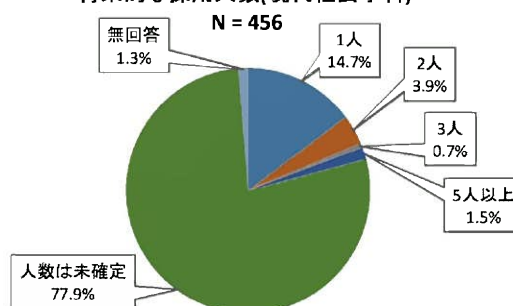
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	141	19.0
2	採用を検討したい	367	49.5
3	採用は考えない	193	26.0
	無回答	40	5.4
	N (%ベース)	741	100



将来的な採用人数(現代社会学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	67	14.7
2	2人	18	3.9
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	7	1.5
6	人数は未確定	355	77.9
	無回答	6	1.3
	N (%ベース)	456	100

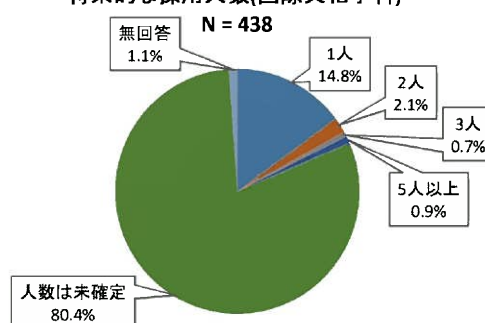
将来的な採用人数(現代社会学科)



将来的な採用人数(国際文化学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	65	14.8
2	2人	9	2.1
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	4	0.9
6	人数は未確定	352	80.4
	無回答	5	1.1
	N (%ベース)	438	100

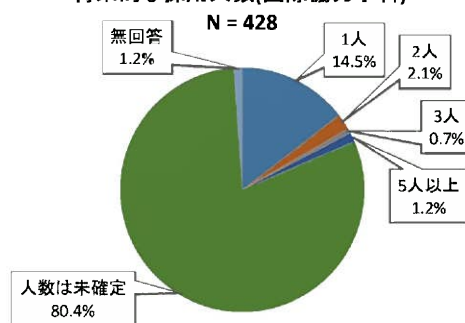
将来的な採用人数(国際文化学科)



将来的な採用人数(国際協力度科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	62	14.5
2	2人	9	2.1
3	3人	3	0.7
4	4人	0	0.0
5	5人以上	5	1.2
6	人数は未確定	344	80.4
	無回答	5	1.2
	N (%ベース)	428	100

将来的な採用人数(国際協力度科)



将来的な採用人数(こどもスポーツ教育学科)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	89	17.5
2	2人	23	4.5
3	3人	11	2.2
4	4人	0	0.0
5	5人以上	9	1.8
6	人数は未確定	368	72.4
	無回答	8	1.6
	N (%ベース)	508	100

将来的な採用人数(こどもスポーツ教育学科)

